

「学びの羅針盤」～学習の手引き～

令和4年度版



羅針盤 航海する船が無事目的地にたどり着くために用いた方位磁石（コンパス）

東京都立 八丈高等学校 定時制課程

目次

巻頭言「学びの羅針盤の発刊に寄せて」	1
第1章 生徒の学ぶ意義と、主体的に学ぶ姿勢・態度	2
(1) 学ぶ意義と自ら学ぶ姿勢の大切さについて	
(2) 本校で取得できる資格・検定と三修制について	
(3) 基本的な生活習慣・心身の健康管理	
(4) 読書活動の推進	
第2章 授業について指導していること	3
(1) 授業の準備と予習	
(2) 授業規律と授業の受け方	
(3) 復習と家庭学習	
第3章 定期考査や評価、学力調査、外部模擬試験についての指導	4
(1) 定期考査、外部模試の利用について	
(2) 学習評価	
第4章 各教科から学び方について指導していること	4
第5章 ノートの取り方・作り方	4
第6章 学びの羅針盤「各教科編」	5
ア 国語科	5
イ 地理歴史科・公民科	9
ウ 数学科	13
エ 理科	17
オ 保健体育科	21
カ 芸術科 音楽	25
美術	28
書道	33
キ 英語科	37
ク 情報科	41
ケ 園芸科	43
コ 家政科	46
資料編	
資料1 読書活動の推進 八高生の中に読んでおきたい50冊	48
資料2 資格・検定による修得単位一覧	50

学びの羅針盤の発刊に寄せて

今日、少子高齢化、就業構造の変化、グローバル化、AIやIoTによる技術革新の急速な進展による Society5.0 の到来など、国際社会を取り巻く環境は大きく変化しています。かつて、「AIが人間の仕事を奪う」という論述がありましたが、AIに淘汰されず、これからの時代を生き抜いていくには、自ら学び課題を見つけ、考え、判断して行動する力が必要です。そのためには、主体的・対話的で深い学びや、思考力・判断力・表現力等を育むための学びが重要です。

本校でも「主体的、対話的で深い学び」の実現を目指した学習が多く展開されています。例えば、生徒同士で意見を交換し合い、個人やグループで課題発見から解決策の提案を行うといった探究学習など、新しい学びが見られるようになりました。

また、振り返りを行う際に、授業で学習したことが鮮明に蘇るように工夫してとったノートやレポートを改めてまとめたり、考査前の学習計画を立て、効果的な独自の勉強法で準備するなどの努力をしたりしている生徒が多く見られます。

今回、本校では、八高の皆さんの学習の手引書として、「学びの羅針盤」をまとめ、授業等でも活用して、生徒がより自主的・主体的・効率的に学習が進められるようにしました。保護者の皆様にも、本校の進路の手引きにあたる「生徒便覧」と合わせて、ぜひ、ご覧いただき、ご家庭での学習面や進路面の会話や相談にお役立ていただきたいと思います。

ドイツの物理学者であるアルベルト・アインシュタインは、「学べば学ぶほど、自分が知らなかった事に気づく、気づけば気づくほどまた学びたくなる」と述べています。

多くの学習方法の工夫や学び方を参考に、八高生一人一人が自分なりの学習法を確立して、各自の進路希望の実現を高いレベルで叶えてほしいと願っています。

令和3年3月31日

東京都立八丈高等学校長
佐藤 俊一

第1章 生徒の学ぶ意義と、主体的に学ぶ姿勢・態度

(1) 学ぶ意義と自ら学ぶ姿勢の大切さについて

八丈高校定時制課程（以下、定時制）では、様々な教育活動を行う上で最も大切にしている考えがあります。その考えは下記の文章にはっきりと表れています。

八丈高校定時制課程では「じっくり、ゆっくり、わかるまで」を心がけ、日々の学習に取り組んでいます。どの科目もその人にあったペースで学べるよう、基礎・基本を大切にしています。すべての教員が、すべての生徒の授業を担当しますので、とてもアットホームな雰囲気の中で学校生活を送ることができます。

(八丈高校定時制課程 生徒募集資料より)

基礎・基本から「じっくり、ゆっくり、わかるまで」取り組むことにより、自ら学び理解する喜びを味わってもらいたいというのが、すべての定時制教員の願いです。定時制ではすべての教員がすべての生徒の授業を担当します。そのため教員と生徒の距離が近く、授業中も余談や雑談を交えながら、リラックスした空気の中で学習することができます。高校で身に付けた知識・技能・能力を十分に生かして、卒業後も充実した生活を送れるよう、一つ一つの授業に積極的に取り組むよう心がけましょう。

(2) 本校で取得できる資格・検定について

四年制大学や短期大学、専門学校への推薦入試では、多くの学校が所有する資格・検定について評価材料としています。また就職試験や公務員の選考でも、資格・検定は得意分野をアピールする材料となります。

各資格・検定によって申込や受検方法はさまざまです。詳しい内容については、巻末の資料2の別表2で確認してください。また、島外でなければ受けられない資格・検定もありますので、受検会場等についても実施団体のHP等で事前に確認してください。

単位として認定される資格・検定があります。加算が認められる単位の例として、他の通信制高校での修得単位、高校卒業程度認定試験（高卒認定）に合格することで認定される単位のほか、定時制在籍中に取得した資格・検定による単位、校外における学修による単位などがあります。単位として認定される資格・検定及び学修の詳細については、巻末の資料2の別表1～3で確認してください。

他の教育機関や高卒認定の申込を含む、すべての手続は自分自身で行ってください。学校が代行することはできません。また島外での受講・受検にかかる交通費や宿泊費その他の費用はすべて自己負担となります。保護者とよく相談して決めてください。詳しく知りたい人は教務部の先生に申し出てください。

(3) 基本的な生活習慣・心身の健康管理

規則正しい生活習慣を身に付けることは、学習面だけでなく健康的な生活を送るためにも非常に重要です。ゲームやSNSに夢中になって寝不足のまま一日がスタートしてしまうと、その日一日の生活に影響が出てきます。アルバイトや学校への遅刻があたりまえになると、よほど努力をしない限り、自分の生活を整えていくことは困難です。また、社会に出てから遅刻や欠席を繰り返すと、社会的信用を損ねた結果、職を失ってしまいます。

定時制には就労している生徒が多くいるため、体調がすぐれないときは無理せず自宅で静養するよう勧めるときがあります。ただし、授業の欠時数が規定回数を超えてしまうと、原則として進級・卒業は認められなくなります。

そうならないためにも、規則正しい生活を心がけ、体調を整えておきましょう。

(4) 読書活動の推進

八丈高校の図書館には2万冊を超える蔵書があります。SDGs関連や進路関係の書籍なども非常に充実しています。購入を希望する書籍のリクエストも可能です。できるだけみなさんの希望に添えるよう配慮していますので、ぜひ活用してください。

今年度は昨年度より1日増えて週3回（月曜・水曜・金曜）、定時制時間帯の午後5時から7時までの2時間、図書アシスタント職員が勤務しています。

本の貸出返却手続きだけでなく、読書に関して気になることがあれば気軽に質問してください。今後もみなさんの知識の源泉として役立つよう図書館を整備していきたいと考えています。

なお、八丈高校の教職員が推薦する本を「八高生のうちに読んでおきたい50冊」と題して一覧表（資料1）を掲載しています。また第6章「学びの羅針盤 各教科編」の中でも、各教科の推薦・参考図書を

紹介していますので、そちらも参考にしてください。

第2章 授業について指導していること

(1) 授業の準備と予習

日中アルバイトをしている生徒や一人暮らしをしている生徒にとって、予習の時間を作ることはなかなか難しいことです。しかし、進学希望の人や、より深く学びたいと考えている人は、できるだけ授業以外の勉強時間を作りましょう。学校やアルバイトに行く前や就寝前のわずかな時間でも、予習の習慣が定着すれば、学習への意欲と理解はあっという間に深まります。少しずつでもいいので予習の時間を作るようにしましょう。

(2) 授業規律と授業の受け方

茶道には「一期一会」ということばがあります。「茶をふるまう相手に対しては、この出会いを一生に一度の機会と心得て、茶を点（た）てよ」という心構えを述べたものです。同じことは勉強にもあてはまります。

進学する人は別として、卒業後、高校時代のように勉強に時間をかけることはできないと思います。後になって「あの時、もっとしっかり学んでおけばよかった」と後悔することのないよう、どの授業も一度きりの機会と考えて真剣に向き合しましょう。

授業中は、スマートフォンやゲーム機など必要ないものは机に出さない、教科書・プリント類や筆記用具などを忘れない、授業と無関係の私語を慎むなど、最低限のルールをわきまえて授業に臨みましょう。

(3) 復習と家庭学習

復習には、学習内容をより深く理解するだけでなく、次の学習への意欲を高める効果もあります。予習同様、短時間でもよいので習慣づけるようにしましょう。

第3章 定期考査や評価、学力調査、外部模擬試験についての指導

(1) 定期考査、外部模試の利用について

定時制では令和2年度より定期考査（テスト）期間を廃止し、新たに振り返り週間を設けました。これは考査のための期間を設定しないという意味であり、考査そのものを廃止したわけではありません。振り返り週間の授業については、次の（2）で説明します。

定時制では、卒業後に多様な進路選択が可能となるよう進路指導に力を入れています。卒業生の多くは就職を選択しますが、過去10年間では4年制大学と専門学校に複数の生徒が進学しています。進学に向けての外部模擬試験の活用、授業前や放課後の講習など、生徒の進路実現に向けて支援を行っています。

(2) 学習評価

振り返り週間では、国語・地歴公民・数学・理科・保健体育・英語について、一人一人の学習の取組状況を振り返り、成果や課題の確認を行います。学習評価の判断基準になるものは、単元終了後の確認テストや課題テスト、小テスト等の結果、提出物や出席の状況のほか、振り返り授業の時間に先生と一対一の面談により理解度を確認するパフォーマンス評価など、それぞれの教科・科目の特性に応じた評価方法を取り入れています。

評価は、各教科で定めるルーブリックという基準にしたがって5段階で設定しています。ルーブリックは「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」及び「学びに向かう力・人間性等」の修得という目標達成の到達目標を示したものです。各教科・科目のルーブリックについては、第6章「学びの羅針盤 各教科編」の中で詳しく説明しているので、必ず確認してください。

みなさん一人一人の個性を伸ばしつつ、実社会で求められる「知識・技能」等の力が身に付くように、様々な材料に基づく評価が行われていることを理解してください。

第4章 各教科から学び方について指導していること

第3章でも触れましたが、各教科の学習方法については、第6章「学びの羅針盤 各教科編」の中で教科・科目の目標、学習方法、ルーブリック（学習評価の基準）等について詳しく説明していますので、ここでは詳細は省略します。

担当の先生から4年制大学や短期大学、専門学校への進学に必要な事項に関するアドバイスも掲載されています。学習の手引書として、ぜひ有効活用してください。

第5章 ノートの取り方・作り方

定時制ではICT機器の活用や生徒同士の対話を重視するなど、45分という限られた時間で効率よく学べるよう、ほとんどの授業でノートの代わりにプリント教材を利用しています。ですが、勉強にノートが必要ないということではありません。職員室の先生方の机には、授業準備のためのノート類がびっしりと並んでいます。それぞれの先生の工夫がぎっしり詰まった魔法書のようなノートです。

学習理解を深めたい人や進学希望者には、特にノートによる学習をお勧めします。学習内容や思考を整理するには、自分でメモを取ったり、ノートをまとめたりする作業が最も効率的です。それに、自分なりの工夫を凝らしたノート作りはそれだけで楽しいものです。ノート作りの工夫については、教科の先生に質問しましょう。様々なアドバイスがもらえると思います。

定時制の学習について十分に理解できたでしょうか。ここで紹介した内容は、定時制の取組の一部分です。「百聞は一見に如かず」というように、やはり自分の目と耳と肌で感じてもらうのが確実です。

次ページからの第6章「学びの羅針盤 各教科編」をよく読んで、ぜひみなさんの学習に役立ててください。

第6章 学びの羅針盤 「各教科編」

国語科 学びの羅針盤

1 身に付けてほしい三つの資質・能力

「国語はすべての学習の基本となる教科」とよく言われます。他の人との会話や読書などの場面で、話し手や書き手の考えを正しく理解するためには適切な知識と技術を身に付ける必要があります。これは、SNS上でのトラブルを避けたり、相手を思いやることで良好な人間関係を築いたりするためにも非常に大切なことだと考えてください。

令和4年度入学生から、新学習指導要領に規定されている新教科が実施されます。国語では1年生に「現代の国語」が配置されます。ちなみに2年生以上の授業については、これまでどおりの科目となります。

昨年度の「学びの羅針盤」は新学習指導要領に示される下記の①から③の項目を身に付けることを想定しています。「2 各科目の目標」では、各科目の評価の観点を含めて説明していきます。

- ①「知識及び技能が習得されるようにすること。」
- ②「思考力、判断力、表現力等を育成すること。」
- ③「学びに向かう力、人間性等を涵養すること。」

2 各科目の目標

【「現代の国語」の目標】（第1学年）

今年度より新たに設けられた科目である。主に明治以降に書かれた文章（小説・評論・詩歌等）を読んで、社会で必要となる国語常識や技能を身に付けることにより論理的理解力や表現力等を身に付け、豊かな想像力と他者に対する共感的な態度を養う。また、言葉の持つ価値を深く理解することにより、卒業後も豊かな読書活動が可能となるための力を身に付ける。

【評価の観点】

知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
<ul style="list-style-type: none"> ○漢字検定5級～3級程度の漢字の読み書きを段階的に習得すること。 ○四字熟語やことわざなど国語常識を身に付けること。 ○文章理解のための語彙力や表現技法等を理解すること。 ○文章構成を理解し、論述の基礎基本を身に付けること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小説の登場人物の心情を理解すること。 ○比喩などの表現技法を理解すること。 ○評論文などの論理的な文章を読み、筆者の主張を理解すること。 ○新聞記事やインターネットの記事をまとめ、発表すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の価値に対する認識を深め、卒業後も積極的に読書に向かう力を身に付けること。 ○言葉をとおして他者や社会に関わっていく態度を身に付けること。

【「国語総合」の目標】（第2学年・第3学年※選択科目履修者）

現代文

現代文の分野では小説や評論文のほか、随想、詩などを学習します。文章の意味を正しく読み取る力や書く力を身に付けることをめざします。

古典（古文・漢文）

古文独特の味わい深い言葉づかい、短歌や俳句などの学習を通じて文化や伝統、現代にも息づく日本語の魅力について考えていくことを目指します。

現代文分野と古典分野をあわせた「国語総合」の評価の観点は以下ようになります。

【評価の観点】

内容	知識及び技能に関すること	思考力・判断力・表現力に関すること
現代文 漢字 四字熟語 ことわざ 文章表現 段落構成 文章読解	○漢字検定5級～3級程度の漢字の読み書きを段階的に習得すること。 ○四字熟語やことわざなど国語常識を身に付けること。 ○文章理解のための語彙力や表現技法などを理解すること。 ○文章構成を理解し、論述の基本的な力を身に付けること。	○小説の登場人物の心情を理解すること。 ○比喩などの表現技法を理解すること。 ○評論文などの論理的な文章を読み、筆者の主張を理解すること。 ○新聞記事やインターネットの記事をまとめ、発表すること。
古典 【古文】 歴史的かなづかい、 文節・文・文章・品詞 【漢文】 返り点 書き下し文 漢詩・文章	【古文】 ○歴史的かなづかいや文法の基礎を理解すること。 ○無常観や習俗などに関する知識を身に付けること。 【漢文】 ○書き下し文の基本ルール（レ点・一二点・上中下点）を理解すること。 ○唐詩や物語に関する知識を身につけること。	【古文】 ○物語や日記を読み、作者の考えを理解すること。 ○中古・中世の文章を読み、背景にある無常観について理解すること。 ○独特の表現や世界観を味わうこと。 【漢文】 ○句法に従って文章を理解すること。 ○漢詩文独特の世界観を味わうこと。 ○中国古来の文化と日本に与えた影響を理解すること。

【「現代文A」の目標】（第3・4学年）

国語総合の学習を、さらに発展させ、生涯にわたって役立つ能力の習得・育成を目指します。そのために「現代文A」では以下のような評価の観点を定めています。

現代文Aの評価の観点は以下ようになります。

【評価の観点】

内容	知識及び技能に関すること	思考力・判断力・表現力に関すること
漢字 国語常識 ことわざ 段落構成	○漢字検定3級～2級程度の漢字の読み書きを段階的に身に付けること。 ○人物の心情変化や情景描写に込められた意味について理解を深めること。 ○新聞やニュースに用いられる重要語について正しい理解を深めること。	○新聞やインターネットの記事の内容を適切に読み取り、理解すること。 ○情報機器等を使用して、プレゼンテーション資料を作成し、発表すること。
文章表現 文章読解	○作文や小論文について段落構成の知識を深めること。 ○課題に関して調査考察を行うために情報機器等についての知識・技能を身に付けること。	○評論文の筆者の主張や小説の登場人物の心情変化等の抽象表現についての的確に理解すること。 ○小説に用いられている比喩表現などの描写の意味を的確に読み取ること。 ○やや長めの評論文を読んで、内容を論理的に理解すること。 ○作文や小論文を書くための段落構成や論理の展開について、適切に表現できること。 ○論理的な文章を読んで、自分の考えを論理的に表現すること。

3 授業について指導していること（主体的で対話的な、深い学び）

高校での学びは、卒業によって完結するものではありません。私自身、高校在学中は、古典文学に対し

てまったく関心がありませんでした。その魅力に気づいたのは、大学受験に失敗した19歳の春でした。私の古典文学の学びは、高校を卒業したところからスタートといえます。高校で学んだことがすべて人生で役に立つわけではありませんが、今は興味が湧かなくても、漢字や小説、俳句や漢詩など、自分の心に眠っていたものが人生のどこかで不意に目を覚ますかもしれません。皆さんにとっての学びが、そのようなものであることを切に望みます。

最初に述べた「知識・技能」や「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力」こそ、ここからの人生をより豊かにするために身に付けてほしい力です。いつか自分の中で「もっとしっかり学びたい」の思いが目覚めたときのために、これから述べる三つの学びを大切にしてください。

(1) 主体的な学び

言葉や思考に興味や関心を持ち、自らの意思で学ぼうとする意欲や態度のことです。

皆さんの好きなアーティストを想像してみてください。その歌詞には、単なる言葉を越えた不思議な力がありますね。古代の日本人も同じことを感じていました。今ほど情報量の豊かでなかった時代のことで、言葉に宿る神秘的な力は今とは比較にならないくらい影響力を持っていたと思います。

言葉は時として絶望をやわらげ、希望を何倍にもしてくれます。その逆もあつたでしょう。小説や新聞の論説文など、すべて言葉によって創り出されるものです。言葉が放つ不思議な力について様々な場面をとおして考え、自分の生活や生き方に結びつけることができるよう意識しましょう。

(2) 対話的な学び

「対話的」には、授業で活発に議論を交わすという意味だけでなく、より深い意味が込められています。それは、自分と相手を対等なものと考え意識です。現代社会は「多様性社会」といわれるように、人の考え方や価値観は千差万別です。自分と異なる価値観を理解し、認めることは、自分の考えをねじ曲げたり、変えたりすることとイコールではありません。大事なことは相手の考え方を正しく理解し、受け入れるということであり、自分と向き合うことです。

このことは、他者の書いた文章を読むときにもあてはまります。評論文のような文章に対して強い反発や抵抗を感じる時は、もしかしたら相手の主張を正しく理解できていないことに原因があるのかもしれませんが、インターネット上のトラブルも、この「対話的」という意識の欠如に起因するものが多くあるように感じます。

直接会って話すときはもちろん、オンラインによる学習の機会など、たとえ相手の姿が見えないときでも互いを尊重しあい、認め合う心をもって、健全な人間関係を築いてほしいと思います。

(3) 深い学び

深い学びとは何でしょうか。国語では主にことばを扱いますが、ことばで表現される中身の多くは人間の思考や感情です。みなさんにも経験があると思いますが、自分の気持ちをどう表現してよいのか、適切なことばが見つからないことがありますね。人間の感情は人間がことばを創り出す前から存在していました。喜怒哀楽ということばがありますが、人間の感情はこの4つだけではありませんし、人それぞれで異なりますから、すべての感情や思考をことばで完全に表現しようとすることはそもそも不可能なことです。不完全なことばで人の考えや気持ちを表現している文章の内容を表現し、理解することのきっかけを身に付けるのが国語の授業とを考えてください。深い学びとは、国語の授業での学びを基礎にして、様々な思考や感情を表現するための方法を探すことだと考えてください。

4 検定試験や大学受験に向けた取組について

定時制課程の学習は、「じっくり、ゆっくり、わかるまで」をいちばん大切に考えています。教員が主体ではなく、生徒の皆さん一人一人が学校の主役として、理解する喜びを体験してほしいと考えています。ですから、卒業後の進路については進学を最優先に考えていません。何よりも一人一人の希望進路の実現を最優先に考えるのが、定時制課程の進路指導だと考えてください。以下、検定試験と大学進学について説明します。

国語科では年に3回程度漢字検定受検の機会を設けています。全日制課程と日程を合わせての実施ですが、別教室での受検ですので、リラックスして受けることができます。

次に大学受験についてです。これまでのセンター試験に代わって大学入学共通テストが導入されています。受験のシステムについては今後多少の変更点がある可能性があります。選択式の解答が重視される点ではこれまで同様です。今回のテストでは、データなどの資料から読み取れる力を問う問題などが採用されています。共通テスト以外にも、各大学で実施している個別の入学試験については、大学ごとに対応が異なりますので、よく調べてください。

進学希望者等を対象に、放課後等の時間に講習を行うこともできますので、教科担当の先生に相談してください。

5 推薦図書・参考図書

巻末の資料「八高生のうちに読んでおきたい50冊」に記載されているもの以外に、私個人からみなさんにぜひ読んで欲しいというメッセージを込めてピックアップしました。学習面だけでなく、思春期という多感な時代に、私が影響を受けた書物も含まれています。どうしても小説が多くなってしまいました。気になる本があったら、気軽に声をかけてください。

小説

山田詠美	「ぼくは勉強ができない」(文春文庫)
遠藤周作	「その夜のコニャック」(文春文庫) 「海と毒薬」「沈黙」(新潮文庫)
吉本ばなな	「体は全部知っている」(文春文庫)
永井隆	「いとし子よ」(アルバ文庫)
新田次郎	「 ^{つるぎだけ} 岳 ^{てん} 点の記」(文春文庫) 「槍ヶ岳開山」(文春文庫)
吉村昭	「海の史劇」(新潮文庫) 「 ^{くまあらし} 嵐」(新潮文庫)
峠三吉	「新編 原爆詩集」(青木書点)
ミヤエル・エンテ	「モモ」(岩波少年文庫)

評論

鷺田清一	「じぶん・この不思議な存在」(講談社現代新書) 「何のために『学ぶ』のか 中学生からの大学講義」(ちくまプリマー新書)
内田樹	「先生はえらい」(ちくまプリマー新書)
高橋圭子	「自然な敬語が基本から身につく本」(研究社)

古典編

上田秋成	「雨月物語」(旺文社文庫)
	「堤中納言物語」(岩波文庫)

学習参考書・問題集

佐藤喜一	「漢字2500 書き取り・読み方ドリル」(旺文社)
佐佐木俊英 大村治代	「大学入試 最新国語頻出問題」(文英堂)
金田一秀穂	「15歳の日本語上達法 15歳の寺子屋」(講談社)
菅野三恵	「古典文法10題ドリル230 古文基礎編」(駿台文庫)
石出靖雄 山口正澄	「資料読解 記述式問題集」(明治書院)

漫画

手塚治虫他	「漫画家たちの戦争」(金の星社)
-------	------------------

その他

アーサー・ビナード	「知らなかった、ぼくらの戦争」(小学館)
-----------	----------------------

地歴・公民科 学びの羅針盤

1 身に付けてほしい三つの資質・能力

- (1) 知識及び技能（何を理解しているか・何ができるか）
- (2) 思考力、判断力、表現力等（理解していること・できることをどう使うか）
- (3) 学びに向かう力、人間性等（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

2 各科目の目標

(1) 地理総合

現代世界の地域構成などについて興味・関心を持ち、国際理解や国際協力に対し主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養う。

(2) 日本史 A

日本の近現代の歴史に興味・関心を持ち、明治時代以降、どのように日本が発展したのかを理解するとともに歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる自覚・資質を高める。

(3) 世界史 A

国と国がつながりグローバル世界の始まりともなった大航海時代以降の世界の歴史に興味・関心を持ち、特に市民革命について重点的に考察し歴史的思考力を高め、国際社会に主体的に生きる自覚・資質を高める。

(4) 政治・経済

現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解するとともに、新聞やニュースなどを興味・関心を持ち、公正に判断することができる能力を養う。

(5) 地理 A

日本地図や世界地図などの基本的な読み取りや知識を理解し、現代世界の地理的な諸課題を地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代社会への興味関心を高める。

3 評価の観点

(1) 地理総合

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
地図や地理情報システムで捉える現代世界	現代世界の地域構成や様々な地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付き、地図や情報システムなどを用いて、その情報を収集し読み取る知識・技能を身に付けること	現代世界の地域構成について、位置や範囲などに着目して、主題を設定し、世界や日本を多面的・多角的に考察し、表現すること
国際理解と国際協力	世界各地の人びとの生活文化や国際文化、地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などともに、地球全体での共通課題などを大観し、理解すること	世界の人びとの生活文化や環境問題などについて、その生活文化や問題が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件などを多面的・多角的に考察し、表現すること
持続可能な地域づくりと私たち	我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害をもとに、地域特性や対策などをふくめた重要な知識・技能を身に付けること	自然災害や生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結びつき、多面的・多角的に考察し、表現すること

(2) 日本史 A

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
私たちの時代と歴史	現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史的事象と現代の結びつきを理解すること	近現代の歴史的事象と現代の結びつきに着目し、主体的に考察し歴史的思考力を培うこと 思考した内容をディスカッションなどを通して表現すること
近代の日本と世界	開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について理解すること ※以下 主な学習内容	開国前後から第二次世界大戦終結までの事項について主体的に考察し歴史的思考力を培うこと

	ペリー来航後の幕末動乱、明治維新、条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係、大正時代、2つの世界大戦など	思考した内容をディスカッションなどを通して表現すること
現代の日本と世界	第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について理解すること ※以下 主な学習内容 現代日本の政治と国際社会、戦後の経済発展と国民生活の変化、現代社会の諸課題と日本史の関連性 など	現代の日本と世界に関する事項について主体的に考察し歴史的思考力を培うこと 思考した内容をディスカッションなどを通して表現すること

(3) 世界史 A

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
世界史へのいざない	自然環境と歴史、日本の歴史と世界の歴史のつながりにかかわる活動を通して、世界史学習の基本的知識を理解すること 世界史学習の基本的技能を習得すること	地理と歴史への関心を高め、主体的に考察し歴史的思考力を培うこと 思考した内容をディスカッションなどを通して表現すること
世界の一体化と日本	近現代世界を理解するために、16世紀以降の世界商業の進展及び資本主義の確立を中心に、世界が一体化に向かう家庭を理解すること ※以下 主な学習内容 大航海時代のヨーロッパと世界の結びつき、ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成、アジア諸国の変貌と近代の日本 など	16世紀以降の世界史への関心を高め、主体的に考察し歴史的思考力を培うこと 思考した内容をディスカッションなどを通して表現すること
地域社会と日本	地球規模で一体化した構造をもつ現代世界の特質と展開過程を理解すること ※以下 主な学習内容 19世紀後期から20世紀前半までの社会変化、帝国主義と世界の動向、2つの世界大戦、世界大戦後の世界の動向、持続可能な社会への展望 など	19世紀以降の世界史への関心を高め、主体的に考察し歴史的思考力を培うこと 思考した内容をディスカッションなどを通して表現すること

(4) 政治・経済

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
現代の政治	現代の日本の政治及び国際政治の動向について関心を高め、基本的人権と議会制民主主義を理解すること ※以下 主な学習内容 日本国憲法、基本的人権の尊重、国際社会の変貌 など	現代の日本の政治及び国際政治への関心を高め、主体的に考察し歴史的思考力を培うこと 思考した内容をディスカッションなどを通して表現すること
現代の経済	現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済のグローバル化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の仕組みや機能について理解すること ※以下 主な学習内容 経済活動の仕組みと特質、貿易、国際経済 など	現代の日本経済及び世界経済の動向への関心を高め、主体的に考察し歴史的思考力を培うこと 思考した内容をディスカッションなどを通して表現すること
現代社会の諸課題	政治や経済などに関する基本的な知識について理解すること ※以下 主な学習内容 少子高齢化社会などの現代日本の諸課題、地球環境・SDGsに代表される国際社会の諸課題 など	現代社会の諸課題への関心を高め、主体的に考察し歴史的思考力を培うこと 思考した内容をディスカッションなどを通して表現すること

(5) 地理 A

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
現代世界の特色と諸課題の地理的考察	世界の諸地域の生活・文化及び地球的課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて理解すること 現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的技能及び地理的な見方を身に付けること ※以下 主な学習内容 地球儀や地図からとらえる現代世界、世界の生活・文化の多様性、持続可能な社会の実現など地球的課題 など	現代世界諸課題への関心を高め、主体的に考察し 「 指摘 」思考力を培うこと 思考した内容をディスカッションなどを通して表現すること
生活圏の諸課題の地理的考察	生活圏の諸課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて理解すること 生活圏の諸課題について、地理的技能及び地理的な見方を身に付けること ※日常生活と結びついた地図、自然環境と防災、生活圏の地理的な諸課題と地域調査 など	生活圏の諸課題への関心を高め、主体的に考察し 「 指摘 」思考力を培うこと 思考した内容をディスカッションなどを通して表現すること

4 授業に臨む姿勢

八丈高校定時制課程では、4年間で「現代社会」、「日本史 A」、「世界史 A」、「地理 A」の4科目を学習します(3年選択者は、「政治・経済」も学習します)。生徒のみなさんに一番習得してもらいたいスキルは、我々が生きている現代世界のさまざまなことに関心を持ち、理解するように努めることです。もっと簡単に言うと、「**日々の生活に興味を持つ**」ということです。「あの国では、なぜ内戦が起こっているのだろうか？」

「なぜ日本は戦争で負けたのに、ここまで発展しているのだろうか?」「なぜ国によって主食が違うのだろうか?」…当たり前前の生活や社会に興味・関心を持つことにより、我々が生きている現代世界をより理解することにつながります。

そのためには、ある程度の基礎知識が必要になります。内戦が起きるまでの経緯は?日本が戦争をどのように戦った?主食はそもそもパンとコメだけ?…基礎知識がないと、そもそも興味を持つ事柄も少なくなり、理解することもできません。基礎知識を、4年間かけてじっくりと学習していきます。

さまざまなことに関心を持ち、みずから理解するように努める力を高めることで、最終的には、学習指導要領における社会科の目標でもある「**国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う**」ことの達成にもつながります。

自分のペースで、ゆっくり・じっくり・楽しく、社会科を学習してもらえたらと思います。

【オススメ! 社会科 授業の取り組み方 5カ条!】

- 1カ条 集中して講義を「聴く」
- 2カ条 授業プリントに答えを「書く」
- 3カ条 授業プリントの余白に、大事だと思ったことを「メモする」
- 4カ条 ディスカッションでは、他人の意見をよく「聴き」、自分の意見を「主張する」
- 5カ条 わからないこと・疑問に思うことは、なんでも担当教員に「質問する」

この取り組み方で学習すると、以下の(1)～(3)の学びがより効果的になります。

(1) 主体的な学び

学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

(2) 対話的な学び

生徒同士の協働、先生との対話を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

(3) 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

5 大学受験対策

社会については大学・学部・学科によって必要になる受験科目が多種多様になります。まずは志望校を決定し、受験科目を調べてみましょう。

受験対策は、授業だけでなく、家庭学習や学校での補習が必要になってきます。受験を考えている生徒のみなさんは、なるべく早く先生に相談しアドバイスをもらいましょう。

6 推薦図書・参考図書（新聞もぜひ読んでください！社会科を学ぶ最高の教材です！）

（1）日本史 A

- ・『終戦 70 年 太平洋戦争 その始まりと終焉』（野田伊豆守、三栄書房）
太平洋戦争について、写真や地図などのビジュアル資料を踏まえて詳しくまとめています。太平洋戦争は、日本人として絶対に理解しなければならない戦争。おススメの一冊です。
- ・『東大教授がおしえるやばい日本史』（本郷 和人監修、ダイヤモンド社）
人物にフォーカスしています。面白エピソードで、日本史好きになること間違いなし！？

（2）世界史 A

- ・『世界史劇場シリーズ』（神野正史、ベレ出版）
世界史のカリスマ予備校講師、神野先生が書いている本です。ストーリー仕立てになっていますので読みやすい上に、書いてある内容は難関私大レベルの知識もあります。受験勉強にもおススメです。
- ・『ベルサイユのばらで読み解く フランス革命』（池田理代子、ベスト新書）
マンガからフランス革命を学習していく一冊。フランス革命の流れや当時の人間関係なども手に取るように分かります、『ベルばら』おそるべし…！！

（3）政治・経済

- ・『世界がぐっと近くなる SDGs とボクらをつなぐ本』（池上彰、学研プラス）
身近な場面のマンガから SDGs を導入しています。イラスト満載で楽しく読める一冊です。

（4）地理 A・地理総合

- ・『はじめて学ぶ世界遺産シリーズ』（NPO 法人世界遺産アカデミー、マイナビ）
とにかく写真が多い！純粋に世界に興味を持ち旅行したくなる一冊です。また世界遺産検定は取得しておく受験にプラスのこともあります、詳しくは社会科担当まで。
- ・『ブラタモリシリーズ』（NHK「ブラタモリ」制作班、角川書店）
某有名テレビ番組の内容が本になっています。地層や各地域の生活文化など分かりやすく写真などを踏まえて解説しています。タモリさんの地理や地形に対する情熱が伝わってきますよ！

数学科 学びの羅針盤

1 身に付けてほしい三つの資質・能力

- ① 知識及び技能（何を理解しているか・何ができるか）
- ② 思考力、判断力、表現力等（理解していること・できることをどう使うか）
- ③ 学びに向かう力、人間性等（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

2 数学Ⅰの目標

- (1) 数と式、図形と計量、二次関数およびデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

(2) 評価の観点

内容	知識・技能	思考力・判断力・表現力
数と式	簡単な無理数の計算ができる。 集合と命題に関する基本的な概念を理解すること。 二次の乗法公式及び因数分解の公式を深く理解すること。 一次不等式の解を求めること。	集合の考え方をを用いて論理的に考察すること。 問題を解決する際に、目的に応じて式を変形できること。 不等式の性質をもとに一次不等式を解く方法を考える。
三角比	鋭角の三角比の意味と相互関係について理解すること。 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、スマホ・タブレット等を利用して値が求められること。 正弦定理や余弦定理について三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさを求めること。	図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くこと。
二次関数	二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。 二次関数の最大値や最小値を求めること。	二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察すること。
データの分析	コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したりすること。	目的に応じて複数のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行うこと。

3 数学Ⅱの目標

- (1) いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。

(2) 評価の観点

内容	知識・技能	思考力・判断力・表現力
いろいろな式	三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解ができること 分数式の四則計算の方法について理解し、計算ができること。 複素数の四則計算ができること。	式の計算の方法をすでに学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察すること。
図形と方程式	座標を用いて、平面上の線分を内分する点や二点間の距離を表すこと。 座標平面上の直線や円を方程式で表すこと。	座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置

	簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたりすること。	関係について考察すること。
指数関数・対数関数	指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすること。 指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。 対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすること。 対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。	指数と対数を相互に関連付けて考察すること。 指数関数および対数関数の式とグラフの関係について多面的に考察すること。
三角関数	三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解すること。 三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解すること。 三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解すること。	三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くこと。 三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察すること。
微分・積分	導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めること。 導関数を用いて関数の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解すること。 不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の定積分の値を求めること。	関数とその導関数との関係について考察すること。 微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積をもお t メル方法について考察すること。

4 授業に臨む姿勢

学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けられようするために次の3つの視点で学習してください。また、まわりの生徒と自分を比べる必要はありません。昨日の自分自身と比較してください。前日出来なかったことができるようになっていることが大切です。主体的に学習することで学びに向かう力・人間性を身に付けていってください。

(1) 主体的な学び

学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

(2) 対話的な学び

生徒同士の協働、先生との対話を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

(3) 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

主体的・対話的な深い学びを実現するために数学の授業では次の取り組みが行われます。

- (1) 生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問が多くされます。積極的に答えていくようにしましょう。
- (2) 演習の時間には机を円形に並べ替えて生徒同士が教えあう環境（定時制サークル）を作ります。人に教えることは最高の勉強です。頑張ってください。
- (3) 数学の問題を解くのに電卓・スマホ・パソコンなどをより良い道具を選択して活用できるようになりましょう。

5 大学受験対策

志望校の受験科目を調べることから始まります。理工や医学系の場合、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bが多く、薬・農・看護では数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bが多数となります。文系の場合、選択科目としての出題がほとんどですが、数学Ⅰ・A、数学Ⅰ・Ⅱ・A、数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bが主な出題範囲となることが多いです。大学によって学部によって違います。大学のHP等を必ず自分の目で確かめてください。次に志望校の赤本を見て出題傾向を把握してください。大学によって傾向が全く違うことに気づくはずですが、また、受験勉強を始めると時間がないことにも気づきます。志望校の合格ラインに届くために必要な学習のスケジュールをたてていかなければなりません。

最後に受験問題が解けるようになるために必要なことを4点挙げておきます。

- ① 公式をすべて覚えて問題をはやく解けるようにする。
- ② 公式を導けるようにして忘れた時にも思い出せるようにする。
- ③ 数学の問題文には条件が書いてあります。その条件を数式に変換できるようにする。
- ④ 良問が載っている問題集や参考書を繰り返し解いて（最低3回）確かな『計算力』と『解法パターン』を身に付ける。

この4つのことができれば、あなたは『数学が得意科目だ』と思えるようになり、志望校に合格できるはずです。健闘を祈ります。

6 参考図書

自分に合った問題集や参考書を見つけてもらうためにお薦めの本を紹介します。

【受験基礎】

① チャート式 基礎と演習 数学ⅠA・ⅡB・Ⅲ チャート研究所著 数研出版 丁寧な解説が記載されているため、数学の苦手な生徒でも、安心して学習を進められます
② 元気が出る数学 馬場敬之著 マセマ出版 偏差値が45前後で、数学にまだ自身がない方でも、この本で学習すれば、高校の中間・期末試験対策だけでなく、易しい大学ならば合格圏内にも挑める実力が得られます。
③ 4STEPⅠA・ⅡB・Ⅲ 数研出版編集部著 数研出版 2～3回繰り返して完全にマスターできれば、この問題集だけでかなりの偏差値に届きます。

【受験標準】

④ チャート式 解法と演習 数学ⅠA・ⅡB・Ⅲ チャート研究所著 数研出版 教科書マスターから入試対策まで、問題解法の定着に最適です。
⑤ 合格!数学ⅠA・ⅡB・Ⅲ 馬場敬之著 マセマ出版 分かりやすい解説と、選りすぐりの良問を反復練習することにより、実力を短期間でつけることができます。
⑥ チョイス新標準問題集 矢神 毅・中森 信弥・沖田 一雄・中村 登志彦著 河合出版 大学入試問題の中から、各分野の標準的で頻出の問題が厳選してあります。

【受験応用】

- | |
|---|
| ⑦ チャート式 基礎からの 数学 I A・II B・III チャート研究所著 数研出版
数学の本質を押さえた学習で、入試対策まで万全です。分量が多いので例題だけでよいので最低2回以上取り組んでください。 |
| ⑧ 大学への数学・1対1対応の演習 数学 I A II B III 東京出版編集部著 東京出版
解法の基本パターンを習得した後に応用問題演習を行うのに適しています。 |
| ⑨ 文系数学の良問プラチカ数学 I A II B 鳥山 昌純著 河合出版
数学 I・A・II・B の範囲から、発展性のある《頻出・典型・良問》ばかりを厳選し、文系受験生の応用力養成を目的としています。 |
| ⑩ 理系数学の良問プラチカ数学 I A II B 大石 隆司著 河合出版
全国の大学入試問題の出題傾向と特徴を分析し、数学 I・A・II・B の範囲から、入試「標準～発展」レベルの《頻出・典型・良問》を厳選してあります。 |

【教養としての数学本】

- | |
|---|
| ⑪ 数学ガール秘密のノート（・式とグラフ・整数で遊ぼう・丸い三角関数・数列の広場・微分を追いかけて・ベクトルの真実・場合の数・やさしい統計・積分を見つめて・行列が描くもの・ビットとバイナリー・学ぶための対話・複素数の広がり） 結城浩著 ソフトバンク クリエイティブ
「数学ガールの秘密ノート」シリーズは、中学生・高校生でも楽しく読める、やさしい数学読み物です。書籍はたくさん出ていますが、どれから読んでも大丈夫です。 |
|---|

理科 学びの羅針盤

身に付けてほしい三つの資質・能力(新学習指導要領の三要素となるので、必ず入れてください。)

- ④ 知識及び技能 (何を理解しているか・何ができるか)
- ⑤ 思考力、判断力、表現力等 (理解していること・できることをどう使うか)
- ⑥ 学びに向かう力、人間性等 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)

各科目の目標

(1) 科学と人間生活

自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。

(2) 生物基礎

日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

(3) 化学基礎

日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

評価の観点

(1) 科学と人間生活

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
科学技術の発展	科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解すること。	科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現すること。
光や熱の科学	光に関する観察、実験などを行い、光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解すること。 熱に関する観察、実験などを行い、熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について、日常生活と関連付けて理解すること。	光や熱の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活を関連付けて、科学的に考察し表現すること。
物質の科学	身近な材料に関する観察、実験などを行い、金属やプラスチックの種類、性質及び用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解すること。 衣料と食品に関する観察、実験などを行い、身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について、日常生活と関連付けて理解すること。	物質の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活を関連付けて、科学的に考察し表現すること。
生命の科学	ヒトの生命現象に関する観察、実験などを行い、ヒトの生命現象を人間生活と関連付けて理解すること。 微生物に関する観察、実験などを行い、微生物の働きを人間生活と関連付けて理解すること。	生命の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活を関連付けて、科学的に考察し表現すること。
宇宙や地球の科学	天体に関する観察、実験などを行い、太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについ	宇宙や地球の科学について、問題を見だし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活

	て、人間生活と関連付けて理解すること。 自然景観と自然災害に関する観察、実験などを行い、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて理解すること。	を関連付けて、科学的に考察し表現すること。
これからの科学と人間生活	これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深めること。	これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察し表現すること。

(2) 生物基礎

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
生物の特徴	<p>様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性を持っていることを見いだして理解すること。また、生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解すること。</p> <p>生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解すること。また、光合成や呼吸などの代謝と ATP を関連付けて理解すること。</p> <p>DNA の構造に関する資料に基づいて遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴を見いだして理解するとともに、塩基の相補性と DNA の複製を関連付けて理解すること。</p> <p>遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNA の塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだして理解すること。</p>	生物の特徴について、観察、実験などを通して、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現すること。
ヒトの体の調節	<p>体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解すること。</p> <p>体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンのはたらきとの関係を見いだして理解すること。また、体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解すること。</p> <p>免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解すること。</p>	ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現すること。
生物の多様性と生態系	<p>植生の遷移に関する資料に基づいて、繊維の要因を見いだして理解すること。また、植生の遷移をバイオームと関連付けて理解すること。</p> <p>生態系と生物の多様性に関する観察、実験などを行い、生態系における生物の種多様性を見いだして理解すること。また、生物の種多様性と生物間の関係性を関連付けて理解すること。</p> <p>生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解すること。また、生態系の保全の重要性を認識すること。</p>	生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現すること。

(3) 化学基礎

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
化学と人間生活	<p>日常生活や社会を支える身近な物質の性質を調べる活動を通して、物質を対象とする科学である化学の特徴について理解すること。</p> <p>物質の分離や精製の実験などを行い、実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付けること。</p> <p>元素を確認する実験などを行い、単体、化合物について理解すること。</p> <p>粒子の熱運動と温度との関係、粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について理解すること。</p>	<p>身近な物質や元素について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現すること。</p>
物質の構成	<p>原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解すること。</p> <p>元素の周期律及び原子の電子配置との周期表の族や周期との関係について理解すること。</p> <p>イオンの生成を電子配置と関連付けて理解すること。また、イオン結合でできた物質の性質を理解すること。</p> <p>共有結合と電位配置と関連付けて理解すること。また、分子からなる物質の性質を理解すること。</p> <p>金属の性質及び金属結合を理解すること。</p>	<p>物質の構成について、観察、実験などを通して探究し、物質の構成における規則性や関係性を見いだして表現すること。</p>
物質の変化とその利用	<p>物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解すること。</p> <p>化学反応に関する実験などを行い、化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解すること。</p> <p>酸や塩基に関する実験などを行い、酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解すること。</p> <p>酸化と還元が電子の授受によることを理解すること。</p> <p>この科目で学んだ事柄が、日常生活や社会を支えている科学技術と結び付いていることを理解すること。</p>	<p>物質の変化とその利用について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現すること。</p>

授業に臨む姿勢

理科は自然を学ぶ基礎教科であり、学ぶための方法として講義だけでなく、観察や実験などを行い、物事を科学的に見て、考える力を身に付けていってほしいと考えています。ここでいう科学的とは根拠や客観性を重視した視点を持つということです。

様々な事物・現象を得られた結果を元に考察し、自分の言葉で説明できるように主体的に学習してください。

(1) 主体的な学びに関する記述

自然の事物・現象から問題を見いだし、見直しをもって課題や仮説を設定し、観察・実験の計画を立てる。

観察・実験の結果を分析して仮説の妥当性を検討し、全体を振り返って改善策を考える。

得られた知識や技能を基に、新たな視点で自然の事物・現象を把握する。

(2) 対話的な学びに関する記述

課題・仮説の設定を基に観察・実験の結果・考察をあらかじめ個人で考え、その後グループで意見交換をし、妥当性を検討する。

(3) 深い学びに関する記述

自然の事物・現象について科学的な視点をもって考察する。

日常生活などにおける問題発見・解決の場面において科学的な視点をもって考察する。

(1) 主体的な学び

演示実験や、映像実験、実際の実験を行う際に自分で仮説を立てるようにしましょう。また、実験後自分が立てた仮説の妥当性について検討しましょう。

(2) 対話的な学び

自分が考えた実験結果や考察が正しいかどうか、級友と意見交換をしましょう。また、相手の意見を正確に聞き取り、自分の考えをよりいいものにしていきましょう。

(3) 深い学び

日常生活や、ニュースなど普段から様々なことに疑問を持ちましょう。また、疑問に思った内容については、書籍やインターネットを使用して自分で調べるようにしましょう。

大学受験対策

理科については大学・学部・学科によって必要になる受験科目が多種多様になります。まずは志望校を決定し、受験科目を調べてみましょう。本校では1年生と2年生で科学と人間生活、3年生で生物基礎、4年生で化学基礎を学ぶカリキュラムになっています。大学受験を考えている場合は早くから次に記す参考書等で勉強しましょう。

推薦図書・参考図書

【受検基礎】

- ・東進ブックス はじめからていねいにシリーズ

まずはどの科目でもこの本からはじめてみましょう。図も多くわかりやすい言葉で解説してあります。

【理科読】

- ・ファラデー ロウソクの科学

言わずと知れた古典科学の名著。高校生の皆さんぜひ一読を！

- ・石 弘之 感染症の世界史

世界を騒がせているコロナウイルスが流行る前に書かれた感染症の歴史を体系的にまとめた本。過去の歴史から様々なことが学べる一冊です。

- ・村山 斉 宇宙は何でできているのか

宇宙のはじまりについてとても分かりやすく紹介している一冊。最後のほうはかなり専門的ですが読んでみる価値は十分です！

- ・藤井 一至 大地の五億年 せめぎあう土と生き物たち

みんなは土についてどれくらい知っているのでしょうか？私たちを支えている大地とは何か教えてくれる一冊です。

保健体育科 学びの羅針盤

定時制では、1年生と2年生で体育を各3単位、保健を各1単位、3年生、4年生で体育を学びます。

定時制の体育の特徴として、学年体育・学年合同体育・全体体育とがあります。

曜日によって人数や取り組む内容が変わります。その中で、知識や技能を身に付けるとともに、仲間と一緒に作戦を考えたり、協力して何かに取り組んだりすることで様々な力がみにつきます。さらに授業内容に前向きに取り組むことや、準備・片付けに積極的であることも重要です。

4年間の体育の授業を通して、生涯にわたって運動を楽しむことができる基礎体力や基礎技能、協調性や課題解決力等を身に付けましょう。

保健では日々の健康課題を明らかにして、適切な意思決定・行動選択から健康の保持増進に繋げていきましょう。また、一人暮らしをしている生徒も多い中、自分の生活課題・健康課題をきちんと認識し、科学的に思考・判断し、適切に対処できる基礎を培っていきましょう。

身に付けてほしい三つの資質・能力

- ① 知識及び技能（何を理解しているか・何ができるか）
- ② 思考力、判断力、表現力等（理解していること・できることをどう使うか）
- ③ 学びに向かう力、人間性等（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

保健体育科の目標

（1）各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。

（2）運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝える力を養う。

（3）生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

体育全体を通しての目標は学習指導要領に以下のように記載されています。

体育の目標

（1）運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。

（2）生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や中間の考えたことを他者に伝える力を養う。

（3）運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

保健全体を通しての目標は学習指導要領に以下のように記載されています。

保健の目標

（1）個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。

（2）健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。

（3）生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

評価の観点

体づくり運動

手軽な運動を行い、①心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き、②仲間と主体的に関わり合うことを理解する。また、実生活に生かす運動の計画を立てることができる。

自己評価 A:よくできる B:できる C:一部できない D:できない

器械運動

「マット運動」、「鉄棒運動」、「平均台運動」、「跳び箱運動」それぞれの種目について、①自己や他者の課題を発見し、問題解決に向けて取り組み方を工夫し、②自分の考えたことを他者に伝えることができる。

自己評価 A:よくできる B:できる C:一部できない D:できない

陸上競技

「競走」（バトンの受渡し含む）、「跳躍」、「投てき」それぞれの種目について、①自己や他者の課題を発見し、問題解決に向けて取り組み方を工夫し、②自分の考えたことを他者に伝えることができる。

自己評価 A:よくできる B:できる C:一部できない D:できない

水泳

「クロール」、「平泳ぎ」、「背泳ぎ」、「バタフライ」「長く泳ぐこと又はリレーをすること」それぞれの種目について、①自己や他者の課題を発見し、問題解決に向けて取り組み方を工夫し、②自分の考えたことを他者に伝えることができる。

自己評価 A:よくできる B:できる C:一部できない D:できない

球技

「ゴール型」、「ネット型」、「ベースボール型」それぞれの種目について、①チームや自己の課題を発見し、問題解決に向けて取り組み方を工夫し、②自己やチームの考えたことを他者に伝えることができる。

自己評価 A:よくできる B:できる C:一部できない D:できない

武道

「柔道、剣道、相撲、空手道、なぎなた、弓道、合気道、少林寺拳法、銃剣道」から選択した種目について、①我が国固有の伝統と文化への理解を深め、②武道の考え方に触れ、表現することができるようになる。

自己評価 A:よくできる B:できる C:一部できない D:できない

ダンス

「創作ダンス」、「フォークダンス」、「現代的なリズムのダンス」から選択した種目について、①体の動きや楽しさの理解を深め、②ダンスの考え方に触れ、表現することができるようになる。

自己評価 A:よくできる B:できる C:一部できない D:できない

体育理論

運動やスポーツの効果的な学習の仕方や、豊かなスポーツライフの設計の仕方について、①課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、②他者に伝えることができる。

自己評価 A:よくできる B:できる C:一部できない D:できない

科目名：体育

育成すべき資質・能力	高い		低い
知識及び技能	運動の楽しさや喜びを深く味わい、継続して運動をすることができる。運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付け、ゲームなどで発揮できる。	運動を主体的、積極的に楽しみながら取り組むことができる。練習で技能を身に付けることができる。	運動に取り組む意志や理解がなく、全くできない。
思考力、判断力、表現力等	自ら課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	運動を仲間と一緒にあって、作戦を考えたり、自分の思いを伝えたりすることができる。部分的に動きを分析して、運動を楽しむための関わり方を身に付けている。	運動に取り組む意志もなく、自己や仲間の課題を解決するために考えることや動くこと、伝えることができない。
学びに向かう力、人間性等	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てる健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養うことができる。	ルールやマナーを守りながら、仲間と協力しながら、意欲的に取り組むことができる。1人1人の違いを大切にしようとする。健康・安全に留意しながら取り組むことができる。	取り組む意欲が見られず、ルールなどを守ることができない。健康・安全にも留意することができない。

「現代社会と健康」、「安全な社会生活」、「生涯を通じる健康」及び「健康を支える環境づくり」の各単元について①個人及び社会生活に関する事項を正しく理解でき、②他者と共有したり、論議することが出来る。

自己評価 A:よくできる B:できる C:一部できない D:できない

科目名：保健

育成すべき資質・能力	高い		低い
知識及び技能	現状の健康レベルを高める自己の課題を理解し、学習に積極的に取り組むことができる。個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けることができる。	現状の健康レベルを高める自己の課題を理解することができる。学習に取り組む、知識及び技能を身に付けることができる。	現状の健康レベルを高める自己の課題を理解することが出来ない。学習に対して取り組む意志が低く、知識の定着ができない。

思考力、判断力、表現力等	単なる暗記や知識理解にとどまらず、日常生活に知識を取り入れることができる。また、目的や状況に応じて他者に伝えることができる。	自分の考えを持つことができる。方法を選択し、それらを説明することができる。	学習に取り組む意志がなく、自分の考えを持つことや他者に伝えることができない。
学びに向かう力、人間性等	主体的、意欲的に学習に取り組み、生涯を通じて自他の健康の保持増進のための力を考え、身に付けることができる。	主体的、意欲的に学習に取り組み、健康について考えることができる。意見を交換するなどの学習活動に取り組もうとしている。	学習に対して意欲が低く、取り組む意志が見られない。他者と関わりながら取り組むことができない。

大学受験対策（進路選択に向けての取組）

する・観る・支える・調べる観点から体育やスポーツの分野を知りましょう。

分野も体育分野、スポーツ科学分野、スポーツマネジメント分野、スポーツ健康分野、武道分野、児童教育分野、保健・医療分野等、さまざまあります。大学・学部・学科によって資格取得もさまざまなので、細かく調べましょう。卒業後の進路は、保健体育・養護教諭、スポーツ指導員、コーチ、公務員（警察官や消防士等）、スポーツ企業、プロ・実業団選手、健康・福祉・介護、一般企業、トレーナー等があります。

ホームページやパンフレットを熟読したり、実際に大学にオープンキャンパスなどで見に行ったりして進路先を考えましょう。

大学の選考方法は様々なので、受験の選考方法を調べてみてください。筆記試験のみならず、面接試験や実技試験を伴う大学もあります。事前に練習できるものについては、学校の先生や保護者の方に協力してもらい、練習を重ねましょう。

推薦図書・参考図書

自分に合った問題集や参考書を見つけてもらうためにお薦めの本を紹介します。

- 球技の誕生 人はなぜスポーツをするのか／松井良明
- からだ・健康・スポーツ /児島康明・石田良恵共著
- 3D踊る肉単 骨単 / 原島広至 著
- スポーツ運動栄養学 /加藤秀夫 他共著
- ヒルガードの心理学 /内田一成 監訳 Basketball Lab 日本のバスケットボールの未来
バスケットボール・ラボ編集部
- 高校バスケは頭脳が9割 三上 太
- ステップアップ高校スポーツ2015 大修館
- Concentration training 長谷川 一彌

芸術科（音楽） 学びの羅針盤

身に付けてほしい三つの資質・能力

- ⑦ 知識及び技能（何を理解しているか・何ができるか）
- ⑧ 思考力、判断力、表現力等（理解していること・できることをどう使うか）
- ⑨ 学びに向かう力、人間性等（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

音楽Ⅰの目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

評価の観点

達成度 身に付け させたい力		高い		低い
		①	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する力	楽曲が作曲された背景や作曲者の意図などを深く理解した上で楽曲を深く分析し、様々な音楽があることを深く理解できる。
②	創意工夫を生かした音楽表現をする力	創意工夫を凝らし、客観的に聴いても、説得力のある音楽表現ができる。	創意工夫を凝らし、説得力のある音楽表現ができる。	創意工夫した音楽表現ができるが、説得力が十分ではない。
③	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫する力	自己のイメージや音楽理論をもとに、必然性がある深い音楽表現を工夫することができる。	自己のイメージや音楽理論をもとに、必然性がある音楽表現を工夫することができる。	自己のイメージや音楽理論をもとに、音楽表現を工夫することができる。
④	音楽を評価しながら、よさや美しさを自ら味わって聴く力	その音楽がどのような価値があるかを理解した上で、よさや美しさを深く味わうことができる。	その音楽がどのような価値があるかを理解した上で、よさや美しさを味わうことができる。	その音楽がどのような価値があるかを理解した上で、よさや美しさを味わうことができるが十分ではない。
⑤	音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む力	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に継続的に取り組み、音楽を愛好し続けることができる。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に継続的に取り組み、音楽を愛好することができる。	音楽の幅広い活動に断続的に取り組み、音楽を愛好することができるが、十分ではない。
⑥	感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく力	自らの感性を高めることに大きな喜びを感じる中で、幅広い音楽活動に積極的かつ継続的に取り組み、音楽によって周囲や自らの生活を明るく豊かなものにできる。	自らの感性を高めることに喜びを感じる中で、幅広い音楽活動に積極的かつ継続的に取り組み、音楽によって自らの生活を明るく豊かなものにできる。	自らの感性を高めることに必要を感じる中で音楽活動に取り組み、音楽によって自らの生活を明るく豊かなものにするが十分ではない。

音楽Ⅱの目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。
- (3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

評価の観点

達成度 身に付け させたい力		高い		低い
		①	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解する力	楽曲が作曲された背景や作曲者の意図などを深く理解した上で楽曲を深く分析し、様々な音楽があることを深く理解できる。
②	創意工夫を生かした音楽表現をする力	創意工夫を凝らし、客観的に聴いても、説得力のある音楽表現ができる。	創意工夫を凝らし、説得力のある音楽表現ができる。	創意工夫した音楽表現ができるが、説得力が十分ではない。
③	個性豊かに音楽表現を創意工夫する力	自己のイメージや音楽理論をもとに、必然性がある独自の深い音楽表現を工夫することができる。	自己のイメージや音楽理論をもとに、必然性がある独自の音楽表現を工夫することができる。	自己のイメージや音楽理論をもとに、独自の音楽表現を工夫することができる。
④	音楽を評価しながら、よさや美しさを深く味わって聴く力	その音楽がどのような価値があるかを深く理解した上で、よさや美しさを深く味わうことができる。	その音楽がどのような価値があるかを理解した上で、よさや美しさを味わうことができる。	その音楽がどのような価値があるかを理解した上で、よさや美しさを味わうことができるが十分ではない。
⑤	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む力	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に継続的に取り組み、音楽を深く愛好し続けることができる。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に継続的に取り組み、音楽を愛好することができる。	音楽の幅広い活動に断続的に取り組み、音楽を愛好することができるが、十分ではない。
⑥	感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく力	自らの感性を高めることに大きな喜びを感じる中で、幅広い音楽活動に積極的かつ継続的に取り組み、音楽によって周囲や自らの生活を明るく豊かなものにできる。	自らの感性を高めることに喜びを感じる中で、幅広い音楽活動に積極的かつ継続的に取り組み、音楽によって自らの生活を明るく豊かなものにできる。	自らの感性を高めることに必要を感じる中で音楽活動に取り組み、音楽によって自らの生活を明るく豊かなものにできるが十分ではない。

授業に臨む姿勢

音楽科の目標を達成するために、次の3つの視点を大切に授業に臨んでください。

(1) 主体的な学び

音楽によって喚起されるイメージや感情を自覚させることが重要である。このことが、イメージや感情を喚起させる要因となった音楽的な特徴を探ったり、芸術としての音楽の文化的・歴史的背景との関わりを考えたりすることの原動力となり、表したい音楽表現や音楽のよさや美しさなどを見出すことに関する見通しを持つことにつながる。

また、音楽表現を創意工夫して音楽で表現したり音楽のよさや美しさを味わって聴いたりする過程で持ったイメージや感情の動きを振り返り、音や音楽が自分の感情及び人間の感情にどのような影響を及ぼしたのかを考えることも重要である。

(2) 対話的な学び

「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽表現をしたり音楽を聴いたりする過程において、互いに気付いたことや感じたことなどについて言葉や音楽で伝え合い、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりする活動が重要である。客観的な根拠を基に他者と交流し、自分なりの考えを持ったり音楽に対する価値意識を更新したり広げたりしていく過程に学習としての意味がある。

(3) 深い学び

音や音楽と出会う場面を大切に、「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽と主体的に関わることが重要である。その際、知覚・感受したことを言葉や体の動きなどで表したり比較したり関連付けたりしながら、要素の働きや音楽の特徴について他者と共有・共感する。このことが、音楽の構造と曲想との関わり、及び音楽の文化的・歴史的背景と曲想との関わりや表現方法、音楽様式、伝承方法の多様性などの音楽文化についての理解、楽曲の特徴や演奏のよさや美しさ、自分や社会にとっての音楽の意味や価値は何かなどの価値判断をすることに関する思考・判断を促し、深めることにつながる。

主体的・対話的な深い学びを実現するために音楽の授業では次のことを特に大切にしてください。

- (1) 1人で練習する時間がメインとなります。誰かに頼らずに、自分自身で練習を進められるようにしましょう。
- (2) 他の人の演奏を聴く時や、教え合い活動を行う時には温かい気持ちで相手を見てあげましょう。音楽は心を育てる教科です。
- (3) 音楽は学校の音楽室だけに存在しているものではありません。日頃から身の回りにあふれている音楽にも耳を傾け、音楽にひたってみてください。

受験対策

音楽系上級学校（音大・教育学部音楽科・音楽系専門学校）への進学を希望する場合、入試科目に音楽の実技や筆記試験があります。しかし、授業内の学習のみでの受験対策は、ほぼ不可能ですので早い段階で個別に相談をしてください。

芸術科（美術） 学びの羅針盤

身に付けてほしい三つの資質・能力

- ⑩ 知識及び技能（何を理解しているか・何ができるか）
- ⑪ 思考力、判断力、表現力等（理解していること・できることをどう使うか）
- ⑫ 学びに向かう力、人間性等（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

美術 I の目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点

達成度 身に付け させたい力		達成度		
		高い	低い	
①	対象や事象を捉える造形的な視点を理解する力	美術作品や造形物の精神的・創造的価値を深く理解し、造形の要素の働きや特徴から抱くイメージを捉える視点を理解した上で活用できる。	美術作品や造形物の精神的・創造的価値を理解し、造形の要素の働きや特徴から抱くイメージを捉える視点を理解できる。	美術作品や造形物の精神的・創造的価値を理解し、造形の要素の働きや特徴から抱くイメージを捉える視点を理解しようとしているが十分ではない。
②	意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表す力	表現の意図に応じて材料や用具の特性を十分に活かし、表現方法を創意工夫して創造的により美しく表すことができる。	表現の意図に応じて材料や用具の特性を活かし、表現方法を工夫して創造的に表すことができる。	表現の意図に応じて材料や用具の特性を活かし、表現方法を工夫して表そうとしているが、十分ではない。
③	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想する力	本質的なよさや美しさ、作者の心情や表現の意図と創意工夫、生活や社会を心豊かにする造形や美術の働きに気づき、発想や構想と鑑賞に関する資質・能力を総合的に働かせることができる。	本質的なよさや美しさ、作者の心情や表現の意図と創意工夫、生活や社会を心豊かにする造形や美術の働きに気づき、発想や構想と鑑賞に関する資質・能力を働かせることができる。	本質的なよさや美しさ、作者の心情や表現の意図と創意工夫、生活や社会を心豊かにする造形や美術の働きに気づくが、発想や構想と鑑賞に関する資質・能力を十分に働かせることができていない。

④	価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める力	鑑賞の視点をより豊かにし、価値意識をもって表現の意図と工夫、美術の働きや美術文化への見方や感じ方を深められる。	鑑賞の視点を考え、価値意識をもって表現の意図と工夫、美術の働きや美術文化への見方や感じ方を深められる。	価値意識をもって表現の意図と工夫、美術の働きや美術文化への見方や感じ方を深めようとしているが、十分ではない。
⑤	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する力	表現・鑑賞の資質・能力を主体的に発揮して楽しさや創造の喜びを味わい、生涯を通じて深く愛好する心情を育むことができる。	表現・鑑賞の資質・能力を主体的に発揮して楽しさや創造の喜びに気付き、生涯を通じて愛好する心情を育むことができる。	表現・鑑賞の資質・能力を発揮して楽しさや創造の喜びに気付き、生涯を通じて愛好しようとしているが、主体的ではない。
⑥	感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく力	価値や心情を感じ取る力を高め、世界の美術作品や文化遺産の美意識や創造性などに触れ、美術を主体的に生かし探求できる。	価値や心情を感じ取る力を高め、世界の美術作品や文化遺産の美意識や創造性などに触れ、美術を生かし探求できる。	価値や心情を感じ取る力を高め、世界の美術作品や文化遺産の美意識や創造性などに触れ、美術を生かし探求するが不足がある。

美術Ⅱの目標

美術の幅広い創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点

達成度 身に付け させたい力		高い		低い
		①	対象や事象を捉える造形的な視点を理解する力	造形的な視点を豊かにするために必要な知識について理解を深められる。
②	意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表す力	多様な発想や構想を基に、表現意図に応じて様々な技能を応用・工夫し、個性豊かで創造的に表すことができる。	多様な発想や構想を基に、表現意図に応じて様々な技能を応用し、個性に応じて創造的に表すことができる。	発想や構想を基に、表現意図に応じて様々な技能を用いて、個性に応じて創造的に表すことができるが、十分ではない。
③	造形的なよさ	生徒一人一人が独自	生徒一人一人が独自性	生徒一人一人が自分らし

	や美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練る力	性や自分らしさを発揮しながら、自分の表したいことを実現するための柔軟で創造的な思考力、判断力等を豊かに働かせて、積極的に発想や構想を練ることができる。	や自分らしさを発揮しながら、自分の表したいことを実現するための柔軟で創造的な思考力、判断力等を働かせて、発想や構想を練ることができる。	さを発揮しながら、自分の表したいことを実現するための創造的な思考力、判断力等を働かせて、発想や構想を練ることができるが、十分ではない。
④	自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深める力	自己の価値観を高めて造形的なよさや独自性を感じ、多様な視点を重視した意図と表現の工夫や美術の働きの見方や感じ方を深めることができる。	自己の価値観を高めて造形的なよさや独自性を感じ、多様な視点を重視した意図と表現の工夫や美術の働きの見方や感じ方への理解ができる。	自己の価値観を高めて造形的なよさや独自性を感じ、意図と表現の工夫や美術の働きの見方や感じ方への理解ができるが、十分ではない。
⑤	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育む力	自己の在り方や生き方との関わりの中、表現及び鑑賞に関する資質・能力を伸ばし学んだ意義を深く理解して、学習活動を充実させることができる。	自己の在り方や生き方との関わりの中、表現及び鑑賞に関する資質・能力を伸ばし、学んだ意義を感じ取り、学習活動を充実させる努力ができる。	自己の在り方や生き方との関わりの中、表現及び鑑賞に関する資質・能力を育み学んだ意義を感じ取ろうとするが、学習活動の充実に至らない。
⑥	感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく力	造形的な視点を豊かにし、造形的な美しさ及び目的や機能との調和を感じ取る力をより主体的に働かせ、感性と美意識を高めることができる。	造形的な視点を働かせ、造形的な美しさ及び目的や機能との調和を感じ取る力を働かせ、感性と美意識を高めることができる。	造形的な視点を働かせ、造形的な美しさ及び目的や機能との調和を感じ取る力を働かせ、感性と美意識を高めようとするが、十分ではない。

授業に臨む姿勢

美術活動を通して、美術の特質を深く理解し、意図に基づいて表現するための資質・能力を身に付け、生涯にわたって美術を愛好する心情を育むために、そして、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造する態度を養い、豊かな情操を培うことを続けられようするために次の3つの視点で学習してください。創造的な表現を生み出し、工夫するためには、基礎的な技法の習得と同時に自身の創造性を磨き、好奇心や探求心をもって創作活動に臨むことが大切です。芸術の自由な世界では、個性を臆せず存分に表現し、自己という人間性の輪郭を表明することが重要です。

また、美術の良さや美しさを深く味わったりすることができるようにするために、他人の作品を多く鑑賞し、他人の感性や価値観を理解し受け入れ尊重すると同時に、自身の作品も同じように尊重されるべきであるという自覚を持ち、自他共に創作活動から完成作品に至るまでのすべての芸術的な活動に深い敬意を持ち続けましょう。主体的に美術活動を行うことで学びに向かう力・人間性を身に付けていってください。

(1) 主体的な学び

技法への基礎的な理解を持ち自身の創作にどのように活かしていくか、アイデアスケッチから完成にいたるまでの見通しを持ってこだわりを持ち粘り強く制作に取り組む活動、そして、造形的な美しさや社会に関わる美術の働きについて自身の考えを持ち、表現を高めていく活動、それらの学習活動を振り返り、次回につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

(2) 対話的な学び

構成や造形、表現の工夫や造形の働き、美術作品としての意義について、完成作品や制作過程にいたるまでの自身の考えや感じたことを明確な言葉で伝え、視覚的な表現を言語的な表現に変換し講評し合い、互いの作品の良さや価値、意義に気づき、自身の表現や考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

(3) 深い学び

これまでの創作活動で習得した基礎的な知識や技法への理解をさらに発展させ、芸術のなかの美術として、より豊かで幅広く深い感性を養うための創作活動の意義や作品の意図を思考する能力を伸ばし、また、美術の経済的な関りとは別の社会に対しての情動的な働きなどについて深く考察しながら作品を構想する「深い学び」が実現できているか。

主体的・対話的な深い学びを実現するために美術の授業では次の取り組みが行われます。

- (1) 生徒自身がどれだけのことができるのか、そして何を作りたいのか把握することから始まります。これまでの活動を振り返り、自己分析した上で自分のやりたいことを整理し、自身の考えや意義を持って積極的に制作に取り組みましょう。
- (2) 鑑賞の時間に、発表またはキャプションを用いて作品や制作についての意図や説明を行えるようにしましょう。そして、お互いの価値観や感性を尊重し、敬意を払うことを大切にしましょう。
- (3) これまでの活動で身に付けた技術や表現力を活かして、鑑賞者に働きかける創作をするとともに、自分の中の美術とは何か思考し、視覚的に表現できるように制作に取り組みましょう。

大学受験対策

自身の能力を知ることから始まります。自身にどれほどの描写力が身についているのか、志望校の望む資質・能力が身についているのかを把握することから始めましょう。授業内での活動のみでの受験対策ではほぼ不可能です。日常的に絵を描く習慣をつけ、デッサンを可能な限り多く描き、早い段階で個別に相談してください。デッサン力は描いた枚数だけ身に付きます。描ければ描けるほど自信につながり、その自信は描写にも表れていくとともに、志望校も近づいてくるはずです。健闘を祈ります。

参考図書

自分に合った参考書を見つけてもらうためにお薦めの本を紹介します。

【デッサン】

① デッサンの基本 アトリエ・ハイデ編 ナツメ社出版

基礎的な技法からパースの取り方まで丁寧に記述されているので、デッサンが初めての生徒でも安心して取り組みます。

② 動物デッサンの基本 宮永美知子著 ナツメ社出版

美術解剖学を基盤とした生物の描き方を、様々な作例をもとにわかりやすく解説しています。

③ 風景デッサンの基本 湯浅誠著 ナツメ社出版
構図の取り方や遠近法まで、丁寧に描き方を紹介しています。

④ スケッチで学ぶ美術解剖学 加藤公太著 玄光社出版
生き物を描く上で欠かせない骨格や筋肉のつき方などについて、人体をもとに初心者でもわかりやすく解説しています。観察だけでは補えない基礎の理解について学ぶことができます。

【実技技法】

⑤ 油絵の教科書 上田耕造著 新星出版社
静物・風景・人物・建物などをテーマ別に丁寧に解説されているため、初心者でもわかりやすく実践できる内容になっています。

⑥ 小野月世の水彩教室 小野月世著 一枚の檜出版
色の基礎知識から技法表現まで、水彩の基本となる知識について詳しく解説されているので、水彩画が苦手な生徒でもかなりの技術が身に付きます。

⑦ アクリル画パーフェクトガイド ジェニファー・キング監修 マール社出版
アクリル画の描き方全般について幅広く解説されているので、わかりやすく取り組みやすい内容になっています。

⑧ 彫塑やさしい造形入門 堤直美著 雄鶏社出版
立体表現の基盤となる彫塑について、基本の技法から丁寧に解説されています。

【色彩検定】

⑨ 色彩検定公式テキスト3級編 公益社団法人 色彩検定協会
色彩についての基礎知識や、色の持つ様々な働きを紹介しています。色彩検定を受験する場合は必須の一冊です。

⑩ 色彩検定公式テキスト2級編 公益社団法人 色彩検定協会
3級の内容を踏まえて、ビジュアルデザインや景観色彩などの専門知識を学習します。

【デザイン】

⑪ デザイン入門教室 坂本伸二著 SBクリエイティブ出版
レイアウト、配色、文字や書体など、デザインに関わるものが総合的にわかりやすくまとめられています。

【教養としての美術本】

⑫ アートと法 小笠原正仁著 阿吽社出版
創作活動を行う上で欠かせない著作権について記述されています。自分の作品や創作活動を守るためにも、著作権については必ず理解しておいてください。

芸術科（書道） 学びの羅針盤

身に付けてほしい三つの資質・能力

- ① 知識及び技能（何を理解しているか・何ができるか）
- ② 思考力、判断力、表現力等（理解していること・できることをどう使うか）
- ③ 学びに向かう力、人間性等（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

書道 I の目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点

達成度 身に付け させたい力		高い		低い
		①	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解する力	書の幅広い表現、鑑賞の活動を通し、習得されたり活用されたりする知識を深く理解出来る。
②	書の伝統に基づき、効果的に表現する基礎的な力	書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を完全に習得する。	書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を習得する。	書の伝統に基づき、表現するための基礎的な技能が十分ではない。
③	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫する力	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて深く構想し表現を工夫する事が出来る。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫する事が出来る。	書のよさや美しさを感じ、構想し表現を工夫する事は出来る。
④	作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉える力	作品の構想と表現の工夫、書の伝統と文化の意味や価値を深く考え、書のよさや美しさを深く味わうことが出来る。	作品の構想と表現の工夫、書の伝統と文化の意味や価値を考え、書のよさや美しさを味わうことが出来る。	作品の構想と表現の工夫、書の伝統と文化の意味や価値を考え、書のよさや美しさを味わうことが出来るが十分ではない。
⑤	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する力	主体的に学習に取り組む態度、生涯にわたり書を愛好し続けることが出来る。	主体的に学習に取り組む態度、生涯にわたり書を愛好することが出来る。	主体的に学習に取り組む態度、生涯にわたり書を愛好することが出来るが十分ではない。

⑥	感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造する力	自らの感性を高め継続的に書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を積極的に創造する事が出来る。	自らの感性を高め書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を積極的に創造する事が出来る。	自らの感性を高め書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造する事が出来るが十分ではない。
---	--	---	---	--

書道Ⅱの目標

書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

評価の観点

達成度 身に付け させたい力		高い		低い
		①	書の表現の方法や形式、多様性などについて深く理解する力	書の表現の方法や形式、書に関する見方や考え方多様に深く理解することができる。
②	書の伝統に基づき、効果的に表現する力	書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を総合的に習得出来ている。	書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を習得出来ている。	書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を十分ではないが習得出来ている。
③	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し、個性豊かに表現を工夫する力	書のよさや美しさを深く感じ、意図に基づいて創造的に構想し、個性豊かに表現を工夫することができる。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し、表現を工夫することができる。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し、表現を工夫することが出来るが十分ではない。
④	作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉える力	作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く理解することができる。	作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい理解することができる。	作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい十分ではないが理解することができる。
⑤	主体的に書の創造的な諸活	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生	主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生

	動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する力	涯にわたり書を愛好する心情を育む事が十分に出来る。	涯にわたり書を愛好する心情を育む事が出来る。	涯にわたり書を愛好する心情を育む事が出来るが十分ではない。
⑥	感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく力	感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して深く、心豊かな生活や社会を創造していくことが出来る。	感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して、心豊かな生活や社会を創造していくことが出来る。	書の伝統と文化に親しみ、書を通して、心豊かな生活や社会を創造していくことが出来るが十分ではない。

授業に臨む姿勢

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く深く関わる資質・能力を身に付けるために、次の3つの視点で学習してください。文字を正しく書く書写能力を高めることも重要ですが、芸術の書道では、創造的に構想し個性豊かな書の表現力を高めることも大切です。自由に表現することを恐れず、他者の表現を理解・尊重し、お互いに認め合うことが重要です。主体的に学習することで学びに向かう力・人間性を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けてください。

(1) 主体的な学び

作品の構想段階から完成に至るまでの作品の変容を確認することで、新たな見通しを持って次の表現へと展開していく活動、また、書の持つよさや美しさを創造的に捉え、自らの生活と関連付けたり、生活や社会における文字や書の働きについて考えたりする活動の充実を図り、それらの学習活動を振り返ることで、次の学びにつなげていくことが重要である。

(2) 対話的な学び

感性を働かせて、書を構成する要素とその関連から生み出される働きの視点で書を深く捉え、作品について感じたことを確かな言葉で伝えたり、互いに批評し合ったりするなどの言語活動を通して、作品の価値や意味を見出していく活動を充実することが重要である。

(3) 深い学び

中学校国語科（書写）の学習を発展させて、「書の特質に即した見方・考え方」を働かせて、芸術としての書と豊かに関わりながら書の創造的活動を展開していくことが重要である。感性を働かせて、思いや意図に基づいて作品を構想し、表現を工夫していく能力と、書のよさや美しさを感じ、創造的に味わう鑑賞の能力を相互に関連させながら、資質・能力を着実に身に付けていくことが重要である。

主体的・対話的な深い学びを実現するために書道の授業では次の取り組みが行われます。

- (1) 古典作品の特徴を自ら分析して書いたり、どのように表現を工夫するかを考えて書いたりする時間を多く確保しています。自ら考えて、積極的に取り組みましょう。
- (2) 自らの作品の意図や表現について説明したり、他者の作品を鑑賞して感じたことを発表したりすることで、お互いに理解・尊重し、認め合うことを大切にしましょう。
- (3) 身に付けた技能を活かして、生活の中の書では相手に伝わる正確な文字、創作作品制作では自分の意図に合った書で表現できるように取り組みましょう。

大学受験対策

書道学科（国公立大学、私立大学、専門学校）への進学を希望する場合、入試科目に書道の実技や筆記試験があります。授業内の学習のみでの受験対策は、ほぼ不可能ですので早い段階で個別に相談をしてください。

参考図書

お薦めの本を紹介します。

【書道理論】

①決定版 中国書道史 角井博監修 芸術新聞社出版
古代から現代までの中国の書の歩みを学べます。時代ごとの年表・概論で大枠をつかめて、作品図版で法書の流れを概観できる便利な一冊です。

②決定版 日本書道史 角井博監修 芸術新聞社出版
三筆・三蹟の名跡から現代まで日本の書の歩みを学べます。日本書道史を時代ごとの年表・概論で大枠をつかめて、作品図版で法書の流れを概観できる便利な一冊です。

【書道実技】

③中国法書選〈全60冊〉 二玄社出版
中国の書の手本として使えます。手本として必須の法書、鑑賞に不可欠の名品を数ある名品の中から精選して60冊に集約編集された本です。

④中国法書ガイド〈全60冊〉 二玄社出版
名跡を鑑賞し、理解し、手本として習う場合に必要な基本知識を網羅しています。中国法書選〈全60冊〉シリーズと併せて使用すると効果的です。

⑤日本名筆選〈全47冊〉 二玄社出版
日本の書の手本として使えます。日本書道史上に空前の黄金期を招来した三筆・三蹟の名跡、日本文化の全ての古典とも言うべき平安仮名古筆を含む名跡が集約編集された本です。

【書道字典】

⑥新書源 二玄社出版
甲骨文から仮名まで80,000字を収録した書体字典です。

⑥角川書道字典 伏見冲敬編 角川書店出版
甲骨文から仮名まで7,700字を収録した書体字典です。

【硬筆】

⑦硬筆書写技能検定3級合格のポイント 狩田卷山著 日本習字普及協会発行
検定試験合格を目指せることはもちろん、日常生活において文字を美しく書くポイントが学べます。過去問題もたくさん掲載されていますので、受験者に役立ちます。

英語科 学びの羅針盤

1 身に付けてほしい三つの資質・能力

- ①基本的英単語を覚え、日常的な話題において沈黙を続けず返事ができること。
- ②日常的な話題について自分の考えを英語で簡潔に伝え、会話を楽しむこと。
- ③外国語としての英語を学ぼうとする向上心を持ち、異文化理解の基礎力を養う。

2 英語コミュニケーション I の目標

- (1) 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図る。聞くこと、話すことなどの基礎的な能力を養う。
- (2) 日常的な挨拶と自分の興味関心事を基本的な英語で話し、質問に答える。
- (3) 疑問詞の what、who、when、where、which、how の意味を理解し、会話で使う。
- (4) コミュニケーションを楽しむ。文化や考え方の違いを知り互いにその違いを尊重する。
- (5) 教科書の本文を理解し、本文で使用されている日常単語を覚え、会話で用いる。
- (6) 簡潔に八丈島の紹介を英語で行う。
- (7) 英語の語順を覚える。返り読みをしない。

評価の観点

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
人称代名詞	日本語の人称代名詞との明確な違いを覚える。	I と You で表現する英語と数多くの 1 人称、2 人称を持つ日本語との違いを文化的に考察するとともに他の人称を英語で瞬時に言えるようにする。
be 動詞と一般動詞	I am live in Hachijo. の文が誤りであることを覚える。 Do you 疑問文と Are you 疑問文を区別できること。	be 動詞の基本的な意味とその後に続く文の要素を覚え発話する。
現在時制 過去時制	三単現の s、複数 of s、所有格の s、これら 3 つの s の違いを覚える。不規則変化の動詞を限定して覚える。	三種類の s があることを知り、会話で使えるよう発話練習を行い基礎作りをする。-d、-t の音が不規則変化動詞にも多くあることを知る。
進行形	「…している」の日本語に惑わされず、「…している真っ最中だ」と覚えること。	進行形で使う基本的日常表現に限定し、動作を示しながら覚え、表現する。
受動態	be 動詞+過去分詞の形を覚える。	過去分詞形とは何かを知る。発話して音を覚える。
後置修飾	人/物+修飾語句という日本語にはない全く違った語順の表現を知る。	the book on the desk、 the legs of the desk 等の日本語との修飾方法の違いを覚える。日本語との決定的な違いとして習得する。
現在完了	have/has+動詞の過去分詞の形を覚える。	現在完了表現で使う基本的動詞の過去分詞形を発話して覚える。経験、継続用法を覚える。

3 コミュニケーション英語 I の目標

- (1) 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞くこと、話すこと、書くことなどの基礎的な能力を養う。
- (2) 日常的な挨拶、一日の活動を基本的な英語で話し、質問に答える。
- (3) 疑問詞の what、who、when、where、which、how の意味を理解し、会話で使う。
- (4) コミュニケーションを楽しむ。文化や考え方の違いを知り互いにその違いを尊重する。
- (5) 教科書の本文を理解し、本文で使用されている日常単語を覚え、会話で用いる。
- (6) 簡潔に八丈島の紹介を英語で行い、英文で書くことができる。
- (7) 英語の語順を覚える。返り読みをしない。

評価の観点

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
人称代名詞	日本語の人称代名詞との明確な違いを覚える。	I と You で表現する英語と数多くの 1 人称、2 人称を持つ日本語との違いを文化的に考察するとともに他の人称を英語で瞬時に言えるようにする。
be 動詞と一般動詞	I am live in Hachijo. の文が誤りであることを覚える。Do you 疑問文と Are you 疑問文を区別できること。	be 動詞の基本的な意味とその後に続く文の要素を覚え発話する。
現在時制 過去時制	三単現の s、複数 of s、所有格の s、これら 3 つの s の違いを覚える。不規則変化の動詞を限定して覚える。	三種類の s があることを知り、会話で使えるよう発話練習を行い基礎作りをする。-d、-t の音が不規則変化動詞にも多くあることを知る。
進行形	「…している」の日本語に惑わされず、「…している真っ最中だ」と覚えること。	進行形で使う基本的日常表現に限定し、動作を示しながら覚え、表現する。
受動態	be 動詞＋過去分詞の形を覚える。	過去分詞形とは何かを知る。発話して音を覚える。
後置修飾	日本語にはない全く違った語順の表現として覚える。	the book on the desk、 the legs of the desk 等の日本語との修飾方法の違いを覚える。日本語との決定的な違いとして習得する。
現在完了	Have/has＋過去分詞の形を覚える。	完了形で使う基本的動詞の過去分詞形を発話して覚える。経験、継続用法を覚える。

4 コミュニケーション英語Ⅱの目標

- (1) 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを論理的に理解したり伝えたりする能力を伸ばす。
- (2) 社会的な話題を基本的な単語で聞いて理解し、また関心のある話題を基本的な英語で話し自分の意見が言えるようにする。
- (3) 教科書の本文を理解するとともに、重要単語を会話で使えるようにする。
- (4) 関心ある国際的な事柄について自己の考えを英語で発言し、意見交換する。
- (5) 八丈島の文化、歴史について簡潔な英語で口頭で説明するとともに、書くことができる。
- (6) 英語の文の構造を知り、後置修飾による文の展開、拡張の方法を覚える。

評価の観点

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
不定詞	副詞的用法を使って話す。	to のイメージを覚え、会話で使う。日本語訳から離れることを目指す。
接続詞	when、 if、 because、 を覚える。	各接続詞の機能を理解し会話で使う。When 節を振り返り読みしない。
助動詞	could、 would、 should 等、過去形に注意する。	丁寧表現を英語で覚える。英語に丁寧表現が多くあることを知る。
現在完了	継続用法を覚える。	過去＋現在として使いこなす。日本語にも完了表現があり、比較する。
不定詞	名詞的用法を覚える。	動名詞との違いを明確にする。副詞的用法もイメージが同じであることを理解する。
現在分詞	後置修飾での用法を習得する。	振り返り読みしない。英語の語順に従って展開していくことを学ぶ。
動名詞	動詞＋動名詞、 動名詞＋be 動詞を覚える。	不定詞との違いを覚える。
関係代名詞	読解できるようにする。振り返り読みをしない。	会話では目的格省略の型を使う。

5 授業に臨む姿勢

1 学年では、英語の基本的な単語、語順、日常表現を覚えます。初めて英語を学ぶことを前提にしています。基礎が最も難しく、何度も繰り返して覚える作業を1学期に行います。同時に日常会話で不可欠な動作や状態を表す単語を集中的に身に付けます。専門的な用語は使いません。

授業で覚えた単語や表現を会話で使えるよう発話練習を英語授業教員とALTで4年間かけて継続的に行います。自己表現できるためには日本語でも表現できるよう学校外で練習して下さい。

単語は繰り返して覚えます。授業では日常会話に不可欠な単語を何度も繰り返して練習します。八丈島の生活、文化、歴史について英語で簡潔に説明できることを会話では目指します。

外国語としてEnglishを身に付けるためには暗記は欠かせません。繰り返し、繰り返し覚えようと努力すると、必ず覚えることができます。好きになれば必ずEnglishが振り向いてくれます。

インターネット動画で英語の勉強法が数多く紹介されていますが、見てみると1か月くらいで英語がマスターできるような学習方法はまだ見つかりませんでした。声に出して、耳で聴いて、英文を音読することを繰り返すことにより、外国語である英語を身に付けましょう。

6 主体的・対話的な深い学びを実現するための授業での取組

(1) 主体的な学び

難しいことを嫌がらないでください。難しい勉強をするのが高等学校です。これから社会で生活していく中では、大量の資料や説明書を読まなくてはなりません。得意な領域の仕事をするだけでは済まないでしょう。面倒くさいことを嫌がらず、計画性と自主性をもって自分で乗り越えていかななくてはなりません。書類を読む力、暗記する力、健康を維持する力、推測する力、必要な情報を選ぶ力、簡潔に説明できる力、人を説得する力、適切な援助や支援を得る力は高等学校で配置されている様々な科目を勉強することで身に付けることができます。受け身の勉強ではなく、自発的な勉強をしてください。

(2) 対話的な学び

社会生活をする以上、他の人の力を直接的にも、間接的にも必要とします。人の力を社会的に手に入れるためには一人でじっとしている限り、満足いく状況にたどり着くことはできません。何を自分が必要としているのか、または、必要としていないのかを決めるのは自分自身です。相手の人、つまり同じ教室にいる他の生徒達と授業を行う教員と教科の授業を通じて対話をしてください。自分の考えや意見をどんどん授業で発言して下さい。他の生徒とともに授業の中で自分の考え方と違った考え方、物事の見方に出会うことで、さらに自分の考え方や物事の感じ方を柔軟で深いものとしてください。

(3) 深い学び

簡単すぎる内容ばかりを毎時間授業で行うと実につまらない授業になります。またいきなり難しすぎる問題を与えられたなら、興味はもてないでしょう。適切な内容と質の問題に取り組むことで、基礎力をつけ、そのうえで応用問題へと順を追って実力をつけていくことができるのが、学校の授業です。独学だけでは勉強のコツもわからず、一度に6、7種類もの異なる勉強などできるはずもありません。

適切に配置された科目を学習することにより、短期間で無駄なく、効果的に各教科の科目を学習することができます。難しい問題をいかに解いていくのか、基礎学習がそのためにいかに重要なものを学校で身に付けることができます。それにより、今までに経験したことのない事柄に冷静に対応することができるようになります。

7 大学受験対策

まず、中学校の教科書3年間の本文が、すべて英語で声に出して読めて、本文の意味を日本語で言えるか確認します。訳ではないので語順が違って多少は構いません。

単語の意味は分かるが分の意味が分からないところが何なのか、わかる人(先生)に確認して

もらいます。そのうえで、中学校3年間で学ぶべき文法問題集の基本問題を短期間に集中的に仕上げます。

次に、基礎的な英文で書かれた10行未満の様々な英文を集めた問題集で読んでいきます。英文の語順に従って理解していく読み方を身に付けます。後ろから戻って訳すことをしてはいけません。そのような読み方では、英語の力はいつまでもつきません。

さらに受験する大学で出題されたレベルの文章を集めた問題集を解いていきます。

最も大切なことは、英文の問題集を**必ず繰り返し、解くことです**。4周、5周して下さい。最初は意味を日本語で書きます。いい加減な理解をしているか、正確に理解しているかチェックすることができます。音声でDLできるものが多いので、**リスニングと音読を必ずやってください**。

単語集は最後の一年間で集中的に覚えます。それまでは英文を集めた問題集を繰り返しその英文の中に出てきた単語をすべて覚えてください。

大学によっては、語法、文法の問題を出すところがあります。問題集を受験一年前に始めてください。

8 参考図書

○基礎作り

「中学校の教科書」 1～3年

「中学校文法問題集」 1～3年

○大学受験向け参考書

中級レベル英文集

「入門英文解釈の技術70」(桐原書店)

応用レベル英文集

「基礎英文解釈の技術100」(桐原書店)

「基礎英文標準問題精講」(旺文社)

英単語集

「ターゲット1900」(旺文社)

語法・熟語・文法

「Next Stage 英文法・語法」(桐原書店)

同じような他のやりやすいものでも構いません。

英文法参考書(辞典の代わり)

「総合英語 Forest」(桐原書店)

さらに難しい問題を楽しむためにお薦めします

「英文解釈の技術100」(桐原書店)

「英文標準問題精講」(旺文社)

「英文解釈教室」(研究社)

「英文読解の透視図」(研究社)

「ポレポレ英文読解プロセス50」(代々木ライブラリー)

これらの参考書、問題集を勉強する際には、必ず勉強した本を繰り返しやってください。英文を見て、日本語に訳さなくても意味が分かるまで繰り返し覚えてください。

また、できなかった問題を飛ばすことなく、必ず覚えてください。苦手な項目を覚えないうまま次の参考書や問題集に進んでしまうと、弱点を抱ええたままで受験に臨むことになってしまいます。苦手なところを嫌がらず、歯を食いしばって取り組んでください。

情報科 学びの羅針盤

身に付けてほしい三つの資質・能力

- ⑬ 知識及び技能（何を理解しているか・何ができるか）
- ⑭ 思考力、判断力、表現力等（理解していること・できることをどう使うか）
- ⑮ 学びに向かう力、人間性等（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

情報 I の目標

- ① 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにしてください。
- ② 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養ってください。
- ③ 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養ってください。

評価の観点

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
情報社会の問題解決	情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身につけること。 情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解すること。 情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解すること。	情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えること。 情報に関することについて、背景を科学的に捉え考察すること。 情報社会の構築について考察すること。
コミュニケーションと情報デザイン	メディアの特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解すること。 情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解すること。 効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を身につけること。	メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択すること。 コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考えること。
コンピュータとプログラム	コンピュータの特徴、情報の内部表現と計算に関する限界について理解すること。 プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について理解し技能を身につけること。 モデルを評価し改善する方法について理解すること。	コンピュータで扱われる情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考察すること。 目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングを活用するとともに、その過程を評価し改善すること。 目的に応じたモデル化などの問題を適切な解決方法を考えること。
情報通信ネットワークとデータの活用	情報通信ネットワークの仕組みなどについて理解すること。 情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解すること。 データの取扱いについて理解し技能を身につけること。	情報セキュリティを確保する方法について考えること。 情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考えること。 データを選択し実行し評価し改善すること。

授業に臨む姿勢

(1) 主体的な学び

学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

(2) 対話的な学び

生徒同士の協働、先生との対話を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

(3) 深い学び

習得・活用・探求という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

主体的・対話的な深い学びを実現するために情報の授業では次の取り組みが行われます。

- (1) 生徒が自ら考え、課題に取り組むことが多くあります。積極的に課題に挑戦するようにしましょう。
- (2) 演習の時間には、Office のソフトを利用し、社会に出たときに使える技術を身につけます。生徒同士で教えあう環境を作っていますので、積極的に参加してください。
- (3) プログラミングを学ぶ過程で、プログラムの構成を考えたりバグの対処などで一つのものを作り上げる構成力などをつけていきます。

大学受験対策

2020 年には小学校でのプログラミング教育が必修になります。その流れで、高等学校では 2022 年に「情報 I」が必修科目として全ての生徒がプログラミングを学ぶことになります。さらに、2024 年には「情報」の科目が入試の出題科目になり、国語や数学のような基礎的科目になります。2018 年には入試科目として「情報」が出題された大学もあります。大学によって出題範囲が異なる場合もあるので必ず HP を確認するようにしてください。プログラミングには、外国語のように多数の言語が存在しています。その中から、受験に必要な言語をあらかじめ調べておきましょう。

プログラミングは、コードを自分で何回も書き込んで仕組みを理解できるようになります。コードを書く際に全体の構造を考える力も必要になります。そのため、情報の勉強だけでなく他教科の学習で学んできたことを生かし、その構築に役立ててください。

プログラミングだけでなく、情報社会を生きるものとしての情報リテラシーも重要になってきます。情報を扱うものとしての最低限のマナーを守り、情報という分野について深く学んでいきたいという気持ちがあれば、志望校に合格できる糧となるはずです。健闘を祈ります。

参考図書

自分に合った問題集や参考書を見つけてもらうためにお薦めの本を紹介します。

【受験基礎】

① 「P 検」テキストシリーズ P 検協会著 P 検事務局

【受験標準】

② キタミ式イラスト IT 塾 基本情報技術者シリーズ きたみりゅうじ著 技術評論社

【受験応用】

③ 苦しんで覚える C 言語 MMGames 著 秀和システム

④ キタミ式イラスト IT 塾 応用情報技術者シリーズ きたみりゅうじ著 技術評論社

園芸科（食品製造） 学びの羅針盤

身に付けてほしい三つの資質・能力

- ⑯ 知識及び技能（何を理解しているか・何ができるか）
- ⑰ 思考力、判断力、表現力等（理解していること・できることをどう使うか）
- ⑱ 学びに向かう力、人間性等（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

食品製造の目標

農業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食品製造に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 食品製造について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。
- (2) 食品製造に関する課題を発見し、農業や農業関連産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- (3) 食品製造について生産性や品質の向上が経営発展へつながるよう自ら学び、農業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

目標の(1)については、食品製造に関するプロジェクト学習を通して、製造原理や原材料特性など食品製造に必要な知識と技術、食品の安全性や品質表示など食品製造に関する知識と技術を体系的・系統的に理解し、身に付けるようにすることを意味している。

目標の(2)については、食品産業の現状と動向、生産工程管理に関する課題を発見し、食品の安全性や環境への配慮、法令順守などの職業人としての倫理観をもって、科学的な根拠などに基づいて創造的に解決する力を養うことを意味している。

目標の(3)については、食品製造が人々の生命の維持や豊かな食生活を提供するという社会的な役割を担っていることを理解し、生産性と品質の向上を図るとともに、地域農業発展の視点から地域農産物を使った商品開発やブランド化、六次産業化など、その振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことを意味している。

評価の観点

	知識・技能	思考力・判断力・表現力
第1章 食品製造の意義と動向	食品製造の意義、食品産業の現状と動向に関する基礎的な知識を身に付け、食品産業の社会的な役割について理解できる	食品製造の意義、食品産業の現状と動向に関する諸課題を考察し、問題の解決を目指して思考を深め、基礎的な知識と技術を基に合理的に判断できる。
第2章 食品製造の基礎	加工食品の特徴を理解し、食品の分類ができるとともに、加工食品が日常生活で果たす役割を理解している。また成分表示などから加工食品の特徴を読み取ることができる。	食品の分類や身近な食品の科学の話題を踏まえ、さらに、生活習慣病などの諸問題を視野に入れ、新しい加工食品、保健機能食品などの開発に関して意見を述べられる
第3章 食品の変質と貯蔵	加工した食品の品質を維持するために、食品の変質の仕組みを理解し、それを防ぐために様々な食品の種類に応じた貯蔵法が存在していることを理解している。	食品の変質を防ぐために、食品に応じた設定されている様々な貯蔵法について、市販されている加工食品に記載されている保存方法の仕組みを理解できる。

第4章 食品加工と食品衛生	食中毒や食品添加物の特徴を理解し、食中毒や食品を介して発生する事故にどのようなものが存在するのか、そして、それを防ぎ安全な食品を提供するためにどのような衛生管理体制が必要なのかを理解している。	食中毒の原因や食品を介して発生する事故の原因にどのようなものがあるのかを理解し、食品衛生から得た基礎的知識を基に、安全な加工食品を製造する工程を検証することができる。
第5章 食品の包装と表示	食品の包装や表示が、商品のイメージや品質を保証する機能を有することを踏まえ、実習で製造した製品にふさわしい包装のデザインができる。	食品の包装や表示が、商品のイメージや品質を保証する機能を有することを踏まえ、実習で製造した商品の包装のデザインの意図を説明できる。
第6章 農産物の加工	原材料としての農産物の特徴を理解し、農産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。また農産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。	農産物を原料とした加工食品の製造方法を踏まえ、地域の農産物の特徴を生かした加工食品を製造するプランを立てられる。
第7章 畜産物の加工	原材料としての畜産物の特徴を理解し、畜産物を主原料とした代表的な加工食品の製造を行うことができる。また畜産物に付加価値をつけて流通していることを理解している。	畜産物を原料とした加工食品の製造方法を踏まえ、地域の畜産物の特徴を生かした加工食品を製造するプランを立てられる。また、地域の畜産物の問題点を把握し、加工食品により、それを解決するためプロジェクトを展開できる。
第8章 発酵食品の製造	発酵食品がそれぞれの国や地域で受け継がれてきた伝統食品であり、その製造方法に微生物の働きが欠かせないことを知識として習得し、発酵食品の一つ一つの製造工程を正確に行うことができる。	発酵食品の製造工程における微生物の作用により生じた成分の変化が、食品の風味を増したり、栄養面での食品機能の強化につながっていること化学的に捉え、説明できる。
第9章 食品製造の実践と企業化	食品の製造や保存に使われる機械の用途や特徴を理解している。また食品の製造や保存に使われる機械の用途を理解し、様々な場面で正しく機械を選択し使うことができる。	食品の製造や保存に使われる機械を駆使し、衛生管理及び品質の安定した加工食品を提供するために作業体系を考案するとともに、作業チームとしてその内容を徹底するためにコミュニケーションを図りながら、作業体系を実行することができる。

授業に臨む姿勢

学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けられようするために次の3つの視点で学習してください。また、まわりの生徒と自分を比べる必要はありません。昨日の自分自身と比較してください。前日出来なかったことができるようになっていることが大切です。主体的に学習することで学びに向かう力・人間性を身に付けていってください。

(1) 主体的な学び

学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

(2) 対話的な学び

生徒同士の協働、先生との対話を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

(3) 深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

主体的・対話的な深い学びを実現するために食品製造の授業では次の取り組みが行われます。

(1) 生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問が多くされます。また製造実習後には必ずレポート課題もあります。日々の授業で学んだことをレポートにまとめ、振り返ることができるようにしましょう。

(2) 製造実習の時間には原材料を用いてみなさんが協力しながら実習を行います。生徒同士が製造工程を考えながら、協力しあう時間を設けて達成感を得られるような授業を展開していきます。

(3) 製造実習の授業では様々な機具を使用します。この授業で学んだ技術や機具の使い方、また衛生管理についても在学中や卒業後に活用できるようにしましょう。

参考図書・資格検定対策関係

食育・食文化

- | | | |
|-----------------------|------|---------------|
| ○「日本の食文化 『和食』との継承と食育」 | 江原絢子 | アイ・ケーコーポレーション |
| ○「食パンレシピ」 | 山崎 豊 | 世界文化社 |
| ○「粉じゃなくてご飯でパン」 | 山田一美 | 文化出版局 |
| ○「まずはこの17食材を」 | 村山 彩 | 大和書房 |
| ○「あたらしいおやつ」 | 白崎裕子 | マガジンハウス |

資格検定

- | | | |
|------------------|------|--------|
| ○「マンガでわかる調理師試験」 | 法月 光 | 新星出版社 |
| ○「世界いちやさしい栄養素図鑑」 | 松本麻希 | 新星出版社 |
| ○「きちんとわかる栄養学」 | 飯田薫子 | 西東社 |
| ○「管理栄養士 国家試験」 | 渡辺睦行 | 秀和システム |

家庭科 学びの羅針盤

身に付けてほしい三つの資質・能力

- ① 知識及び技能（何を理解しているか・何ができるか）
- ② 思考力、判断力、表現力等（理解していること・できることをどう使うか）
- ③ 学びに向かう力、人間性等（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）

家庭基礎の目標

家庭生活に関する基本的な知識と技術を習得し、自身の生活の課題を振り返り、実生活の充実と自立につながるようにしてください。

評価の観点

	知識・技能	思考・判断・表現
身に付けさせたい力	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識や技術を習得している。	家族や地域の生活課題を見つけ、主体的な解決を目指して思考を深め、適切に判断できる。
レベル A 【高度な目標】	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識や技術を習得している。資料やグラフのデータを収集し、十分に活用している。	家族や地域の生活課題を見つけ、主体的な解決に向けて自分の考えを発表したりまとめたりする力が十分身に付いているとともに、他の生徒の考えを受容し、更に高めることができる。
レベル A 【高度な目標】	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識や技術を習得している。資料やグラフのデータを収集し、活用している。	家族や地域の生活課題を見つけ、主体的な解決に向けて自分の考えを発表したりまとめたりする力が身に付いている。
レベル A 【高度な目標】	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識や技術を習得しようとしている。	家族や地域の生活課題を見つけ、主体的な解決に向けて自分の考えを発表できる。

授業に臨む姿勢

（１）主体的な学び

家庭科は生活の自立に欠かせない科目であり、実生活と学習内容と関連付けて興味関心をもつことが第一です。見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

（２）対話的な学び

生徒同士の協働、先生との対話を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

（３）深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、

情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

主体的・対話的な深い学びを実現するために「家庭基礎」の授業では次の取り組みが行われます。

- (1) 説明をよく聞いて、学習に取り組み、実生活に学びを生かしましょう。
- (2) ペアやグループで活動する学習を多くとり入れている科目です。生徒同士、積極的に教えあう環境を整えてください。

大学受験対策

家庭科は、生活全般が学びのフィールドです。生活の中で疑問に思ったことをさらに深めることが受験対策となります。

疑問は教科書や本やインターネットで調査しても、分からないことがあると思います。その場合は、家庭科の担当教員に積極的に聞いてください。

参考図書

自分に合った問題集や参考書を見つけてもらうためにお薦めの本を紹介します。基本的には校内図書館にあるものを紹介していますので、手に取ってみてください。

【全体】

これが正解！ひとり暮らしスタートブック

まずは自分自身の生活の自立から！ひとり暮らしに必要な知識がシンプルにまとめられています。実家暮らしの人も、この本を読んで、自分自身の生活が1人でもできるように実践してみましょう。

【食物】

教えて！栄養素男子：気になるあの栄養素がよくわかる

栄養素をイケメン男子に擬人化して、わかりやすくまとめている本です。「何のために、食べ物を食べれば良いの？適当に食べていれば良いだろう！」という考えの人に読んでほしい1冊です。役割に応じてどの栄養素を食べると良いのかが理解できます。

【被服】

フランス人は10着しか服を持たない

お気に入りの服を持ち、クローゼットを整理することによって自分のライフスタイルが確立される。暮らしがシンプルになり、自分のライフスタイルがより豊かになるという考えが深まる一冊です。「衣服に興味がない！」そんなあなたこそ、読んでほしい1冊です。

【家族・保育】

たまごクラブ・ひよこクラブ

町立図書館で定期閲覧することができます。最新の子育て事情が分かりやすく掲載されています。育児の本などはたくさんありますが1冊です。

(資料1) 読書活動の推進 八高生の内に読んでおきたい50冊

推薦者	書籍名		著者
国語科	論語		孔子(弟子による言行録)
	源氏物語		紫式部
	こころ		夏目漱石
地理歴史科 ・ 公民科	歴史とは何か		E・H・カー
	思考の整理学		外山滋比古
	ソクラテスの弁明		プラトン
数学科	とてつもない数学		永野 裕之
	頭脳の数的リストラクション 思考力をつける数学		深川 和久
	知ってる?人生に必要な数学 50 Mathematical IDEAS		トニー・クリリー
理科	ペンギンが教えてくれた物理の話		渡辺佑基
	ご冗談でしょう、ファインマンさん		リチャード・P・ファインマン
	ロウソクの科学		マイケル・ファラデー
保健体育科	ぜんぶわかる 人体解剖図		坂井 建雄 橋本 尚詞
	心を整える。勝利をたぐり寄せるための56の習慣		長谷部 誠
芸術科	音楽	もっと音楽が好きになるころのトレーニング	大場ゆかり
		楽典 音楽家を志す人のための	菊池有恒
	美術	デッサンの基本	田村正隆
		観察力を磨く 名画読解	エイミー・E・ハーマン
	書道	決定版 中国書道史	角井博
		決定版 日本書道史	名児耶明
英語科	英語上達完全マップ		森沢洋介 ベレ出版
	世界一わかりやすい英語の勉強法		関正生 KADOKAWA
	外国語を話せるようになるしくみ シャドーイングが言語習得を促進するメカニズム		門田修平 SB クリエイティブ
情報科	「P検」テキスト		P検協会
	キタミ式イラスト IT塾 基本情報技術者		きたみりゅうじ
	キタミ式イラスト IT塾 応用情報技術者		きたみりゅうじ

農業科	日本農業技術検定 3 級テキスト	全国農業高等学校長協会
	日本農業技術検定 3 級問題集	全国農業高等学校長協会
	農耕と園藝	誠文堂新光社
家庭科	栄養素キャラクター図鑑	田中明・蒲地桂子
	オレンジページ	オレンジページ
	装苑	文化出版局
	NHK すてきにハンドメイド	NHK 出版
八丈を知るための本 (加藤・笹本)	《自然》八丈島の植物ガイドブック	八丈島観光振興実行委員会
	《文化》八丈島の民話	浅沼良治編
	《歴史》八丈島の戦史	山田平右エ門
	《産業》島々人 simagazine	松本寧々
	冒険者たち ガンバと15ひきの仲間	齋藤惇夫
進路のための本 大学・専門学校・就職 進路指導部	蛍雪時代 (月刊)	旺文社
	「なるには Books」シリーズ	ペリかん社
	現代用語の基礎知識	自由国民社
保健室 健康・保健・LGBTQ	ゲイだけど質問ある？	鈴掛 真 講談社
	不都合な真実 地球温暖化の危機 ECO 入門編	アル・ゴア 枝廣淳子＝訳 ランダムハウス講談社
	世界がもし 100 人の村だったら ④子ども編	池田香代子＋マガジンハウス編
図書室	未来を買える目標 SDGs アイデアブック	一般社団法人 Think the Earth
	ペスト	カミュ
	サピエンス全史	ユヴァル・ノア・ハラリ
	ジョゼと虎と魚たち	田辺聖子
	えんとつ町のプペル	西野亮廣
	宇宙兄弟	小山宙哉

(資料2)

別表1 高等学校卒業程度認定試験科目一覧表

高認教科名	受験科目	対応科目	単位数	高認教科名	受験科目	対応科目	単位数
国語	国語	国語総合	4	数学	数学	数学Ⅰ	3
地歴公民	世界史A 日本史A 地理A	同左	各2	理科	科学と人間生活 物理基礎 化学基礎 生物基礎 地学基礎	同左	各2
	世界史B 日本史B 地理B	同左	各4				
公民	現代社会 倫理 政治・経済	同左	各2	英語	英語	コミュニケーション 英語Ⅰ	3

別表2 技能検定科目・単位数表

教科	技能検査の種類	級・種別	対応科目	単位数上限	実施団体
国語	日本漢字能力検定	1級	国語総合 または現代文A	5	(公財)日本漢字検定協会
		準1級		4	
		2級		3	
		準2級		2	
		3級		1	
数学	実用数学技能検定	1級	数学Ⅰ または数学Ⅱ	5	(公財)日本数学検定協会
		準1級		4	
		2級		3	
		準2級		2	
		3級		1	
外国語	実用英語技能検定	1級	コミュニケーション英語Ⅰ またはコミュニケーション英語Ⅱ	5	(公財)日本英語検定協会
		準1級		4	
		2級		3	
		準2級		2	
		3級		1	
情報	P検 ICTプロフィシエンシー 検定試験	1級	社会と情報	5	ICTプロフィシエンシー 検定協会 (P検協会)
		2級		4	
		準2級		3	
		3級		2	
		4級		1	
	ビジネス文書実務検定	2級		2	(公財)全国商業高等学校協会
		3級		1	
農業	園芸装飾技能士	3級	草花 または食品製造	2	厚生労働省
	日本農業技術検定	2級		2	日本農業技術検定協会
		3級		1	

別表3 校外における学修の単位認定

以下の校外における学修について卒業単位数に認定をする
1 アドバンスト・オープンウォーター・ダイバー・コース程度の資格取得・・・1単位
2 職業に関する各教科・科目と密接な関係を有する職業に従事している場合、その実務等がその科目を修得した場合と同様な効果があると認められる場合、その実務をもって教科・科目の修得を認定する。・・・4単位
3 ボランティア活動等に係る学修の単位認定・・・4単位
4 大学、高等専修学校、専修学校における学修の単位認定・・・2単位
認定条件等
1 活動内容が高等学校教育にふさわしいと認められるもの。
2 1単位について35時間程度の活動時間が認められるもの。